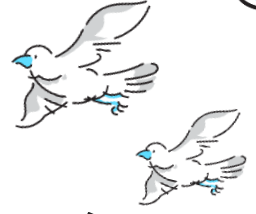


ふくしま

SDGS



推進プラットフォーム

取組集 (令和4年度)

1 貧困をなくそう



2 飢餓をゼロに



3 すべての人に健康と福祉を



4 質の高い教育をみんなに



5 ジェンダー平等を実現しよう



6 安全な水とトイレを世界中に



7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに



8 働きがいも経済成長も



9 産業と技術革新の基盤をつくろう



10 人や国の不平等をなくそう



11 住み続けられるまちづくりを



12 つくる責任つかう責任



13 気候変動に具体的な対策を



14 海の豊かさを守ろう



15 陸の豊かさも守ろう



16 平和と公正をすべての人に



17 パートナースHIPで目標を達成しよう



18 複合災害から福島を復興させよう



ふくしま応援!『ペコ太郎』



キビタン©福島県



～ もくじ ～

- ▶ 福島SDGs推進プラットフォームについて…………… 3
- ▶ プラットフォーム 活動の経過…………… 4
- ▶ プラットフォーム会員の皆様の取組集…………… 5
- ▶ 福島SDGsアワード 応募取組一覧…………… 52

▷ 福島県総合計画について

あらゆる政策を網羅した県の行政運営上の最上位計画であり、県の目指す方向性や施策を示す県づくりの基本的な指針です。目指す将来の姿をSDGsの視点でも描いています。

▷ 総合計画とSDGs

本県は、震災・原発事故という未曾有の複合災害からの復興の取組と、急激な人口減少などの全国共通の課題への取組を同時に進める必要があります。

本県が目指す将来の姿の実現に向けて、これらの課題を解決していく取組は、持続可能な社会の実現を目指すSDGsの取組と方向性が一致しています。

計画では、世界の共通言語であるSDGsの視点を取り入れ、福島県に心を寄せる人々との連携・協働を深めながら、福島県の復興・創生を着実に前に進め、「持続可能で豊かなふくしま」の実現を目指しています。



福島県総合計画 表紙イラスト

▷ 詳しくは県ホームページをご覧ください。

<http://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/11015b/comprehensiveplan2022-2030.html>



ふくしまSDGs推進プラットフォームについて

1 プラットフォームについて

持続可能な県づくりを進めるにあたっては、2015年の国連サミットで決定した国際社会の共通目標である「持続可能な開発目標」(SDGs)の達成に向けた取組が、幅広い分野や地域で展開されることが重要です。

福島県では、SDGsを入口とした、県内の市町村や企業、団体、NPOなど産学官共金労言の多様な主体による連携・協働の機会を創出し、県づくりを推進するために、その活動の場としてプラットフォームを設置しています。

プラットフォームでは、県全域におけるSDGsの取組の一層の向上を図り、SDGsを通じた本県の課題解決に向けた広がりと活性化を促進するため、「ひろがる!」「つながる!」「まなべる!」の3つの視点から、様々な活動を行っています。

SDGsに関心のある団体であれば、県内外を問わず入会可能です。(会費は無料です。)

2 対象

企業、団体、教育機関、NPO等、福島県内でSDGs推進に取り組む、又は関心がある団体
※任意団体を含みます。

3 活動内容

- (1)SDGsに関連するシンポジウム(フォーラム)・セミナー等イベントの開催
- (2)会員が実施するSDGs関連イベントや取組の発信
- (3)会員間の連携やマッチングの支援
- (4)会員間・第三者によるSDGsに関連する取組の顕彰
- (5)会員間の先導的取組・SDGsに関連する研究等の情報共有及び相互啓発
- (6)その他、目的の達成に必要な事業

4 主なメリット

- (1)ひろがる!
会員間の交流やホームページ、メルマガによる情報の発信・受信をすることができます。
- (2)つながる!
解決したい課題を持つ会員と、解決策やノウハウを持つ会員とのマッチングをサポートします。
- (3)まなべる!
分科会の設置・参加を通じて、知見の共有や異分野連携・官民連携機会を創出できます。

5 会員登録について

会員登録申込書兼誓約書に必要事項を入力し、事務局(県復興・総合計画課)にご提出ください。

詳細や会員登録申込書兼誓約書は、下記の専用ホームページをご確認ください。

<専用ホームページ>

<http://www.pref.fukushima.lg.jp/site/sdgs-pf/>



R3.10.18

福島県総合計画の策定

内堀県政になってから初めて作った総合計画。
福島の県づくりの方向性と、SDGsの目指す方向性は一致しているとの考えの下、「目指す将来の姿」をSDGsの視点でも描いたことが特徴。



計画P38-39より抜粋

R4.2.17

ふくしまSDGs推進フォーラム

次年度の「ふくしまSDGs推進プラットフォーム」の正式な立ち上げに向け、県内の機運醸成につなげるために開催。
総合計画に掲げる「目指す将来の姿」の実現に向け、SDGsを入口（きっかけ）とした連携・協働による福島の未来づくりや誇りづくりの推進に向けたイベント。



R4.4.27

プラットフォーム始動（会員募集開始）

R4.6.13

プラットフォーム キックオフイベント、第1回SDGsセミナー

ふくしまSDGs推進プラットフォームの立ち上げを県内外に広く周知するとともに、産学官共金労言等の幅広い団体が、今後、力を合わせて連携・協働を進めていくことへの機運醸成や共感につなげる。



R4.9.24
~R4.9.25

ふくしまSDGs博へのブース出展

福島民報社主催のイベント。県内外のSDGsに取り組む企業・団体がブース出展。
当プラットフォームも参加し、連携協定締結企業である東邦銀行・東京海上日動と連動したクイズラリーや自分の18番目の目標を考えてもらうコーナーなどを設けた。



R4.12.8

プラットフォーム第2回セミナー（企業向け脱炭素セミナー）

プラットフォーム会員である東京海上日動火災保険(株)の協力を得て企業向けの脱炭素セミナーを実施。セミナー後には、会員同士で取組を共有し合う交流会を実施した。



R4.12.1

「ふくしまSDGsアワード」の開催決定及びエントリー募集開始

R5.1.5

プラットフォーム公式SNS開設

R5.1.26

プラットフォーム専用ホームページ開設

R5.3.5

「ふくしま復興とSDGsを考える県民シンポジウム」の開催

【通年】SDGs出前講座

申込みや希望に応じ、官民間問わず出前講座を実施。

SDGsの成り立ちや基本的な考え方、県総合計画との関連や、福島県内におけるSDGs推進の取組等について説明。

【開催実績】

8回 255名 (R4.12現在)



プラットフォーム会員の皆様の取組集

プラットフォーム活性化や会員間の情報交換、連携・協働の一助となることを目的に、会員の皆様のご協力をいただき取組集を作成いたしました。

※令和4年12月に掲載取組を募り、ご提出をいただきました全50団体の皆様の取組をまとめています。

取組集は、団体区分（産学官共金労言）ごと、主な取組内容を2つ記載いただいている会員様から50音順（県内自治体については、市町村コード順）に掲載しております。なお、主な取組を1つ記載いただいている会員様については、他の会員様と上下に分けて掲載しております。

会員一覧

プラットフォームに入会いただいている会員様の一覧は下記のホームページに掲載しております。こちらも併せてご覧ください。

▶専用ホームページ - 会員一覧

<http://www.pref.fukushima.lg.jp/site/sdgs-pf/member.html>



取組集 凡例

団体名

主な活動場所：福島県〇〇市

会員登録
申込書に
記載の
主要ゴール

目指す主要ゴール

主な取組

取組名

取組内容の説明

取組に関する写真・図

会員と連携可能な強み

会員登録申込書に記載の「会員と連携可能な強み」

会員と連携して取り組みたい課題

会員登録申込書に記載の「会員と連携して取り組みたい課題」

※「会員と連携可能な強み」、「会員と連携して取り組みたい課題」については、任意記載項目となっているため、申込書に記載のあった団体のみ、取組集に転記。

〒〇〇〇-〇〇〇〇 福島県〇〇市・・・
【HP】ホームページ等URL
【TEL】電話番号 【MAIL】メールアドレス（担当：〇〇）

HPの二次元
コード

※上記の団体情報は令和5年2月末時点の情報となります。



主な活動場所：福島市、郡山市、白河市、いわき市、浪江町、広野町

主な取組①

にぎわい東北 地域がにぎわう循環型プロジェクト

本プロジェクトでは、店舗で販売できずに廃棄していたパンの切れ端やお取引先さまの商品製造過程で出る規格外の食品などを家畜の飼料や堆肥へ有効活用し、商品の開発や販売を行う「食とくらしの循環型サイクル」を形成してまいります。

一例として、食品残渣からできた飼料などを食べて育った豚肉を商品化し、また食品残渣でできた培養土を商品化することで、地域のお取引先さまと連携した持続可能な商品開発・販売に取り組んでいます。



主な取組②

浪江町・双葉町内での水素で走る「移動販売車」運行

今後、浪江町、双葉町で特定復興再生拠点区域の避難指示解除が段階的に見込まれるなか、買い物環境確保の取組のひとつとして、イオン浪江店を拠点とした水素で走る「移動販売車」の運行を開始しました。

この取組は、日々のお買い物に不便を感じている皆さまのお買い物を支援すると同時に、地域の皆さまのコミュニケーションの場にもなると考えています。

※この「移動販売車」の運行は、2022年5月31日に締結しました「特定復興再生拠点区域等における水素燃料電池自動車を活用した移動販売事業に関する基本協定」による取り組みです。



会員と連携可能な強み

- ・自社の施設を使って、地域住民へ広く啓蒙活動やPR活動ができる。
- ・SDGsに関わる商品の販売ができる。

会員と連携して取り組みたい課題

- ・健康課題解決のための取り組み
- ・子育て支援の取り組み
- ・環境課題解決に向けた啓発活動





主な活動場所：福島県安達郡大玉村

主な取組①

「エシカル消費」で持続可能な社会をつくろう

あだたらの里直売所では地元の野菜を販売し、地産地消につながっています。これは運送にかかる燃料を削減することになり環境に対して負荷を軽減することにつながります。また、規格外の野菜を販売していますが、これも無駄を省くことにつながります。

これら以外にもあだたらの里直売所では障がい者施設の商品を販売してきました。これは様々な立場の人々が社会の一員として参加・活躍できる社会につながり「エシカル消費」につながっています。

こうした取り組みを福島県内に広めるため、毎月12日を「エシカルの日」として啓発イベントを開催したり、啓発グッズの設置を通して情報発信に取り組んでいます。

※エシカル消費とは…地域の活性化や雇用などを含む、人・地域・環境に配慮した消費行動です。



店内普及グッズ



イベントの様子



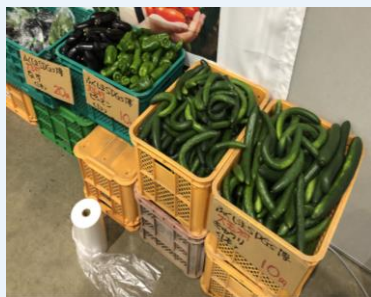
イベントの様子



主な取組②

もったいない（規格外）野菜を食べよう

農家で作った野菜の中には農協やスーパーの流通に卸す際には決められた規格（大きさ、形）にしなげればならず、規格外になってしまったものは廃棄されてしまいます。こうした味はおいしいのに捨てられてしまう「もったいない野菜」をあだたらの里直売所で販売することで農家の所得向上、生産者の意欲向上、新規就農につながることで持続可能な社会を目指しています。



店頭に並ぶもったいない野菜。
大きなきゅうりや曲がっているきゅうり



あだたらの里直売所にてもったいない野菜を
買い求める消費者

会員と連携可能な強み

- ・新鮮でおいしい野菜の提供ができる
- ・広場を活用することでイベントの開催が可能

会員と連携して取り組みたい課題

- ・他業種との連携を通して物産活動の機会を得たい（イベント時の出店など）
- ・広場を活用してイベントの開催など





主な活動場所：福島県双葉郡葛尾村

主な取組①

葛尾スマートコミュニティの構築・運営

弊社は、葛尾村と福島発電株式会社が出資し2018年に設立された、双葉郡葛尾村に根差した地域新電力会社です。「未来の村のかたちをつくる」を理念に掲げ、事業を展開しています。

葛尾村の中心部に太陽光発電設備と蓄電池、全長5kmの自営線による「葛尾村スマートコミュニティ」を構築し、運営しています。電力の地産地消で村内に経済循環を生み、災害時には電力自立によって村民の生活を守ります。



主な取組②

福島県産再エネ活用拡大事業への参加

県内の再生可能エネルギー発電所の電力を県内の需要家（事務所・工場等）に提供する事業に、小売電気事業者として参加し、地域内での再エネ流通による地域活性化に寄与しています。

電気代の一部は地域活性化資金として、発電所のある地域に還元されます。





主な活動場所：福島県岩瀬郡鏡石町

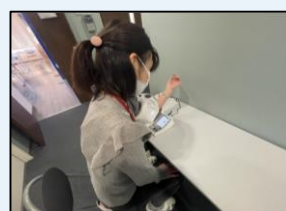
主な取組①

健康経営

自社でプロデュースした塩分ケアサプリメント「むくまんもん」の社内販売、一般販売で、血圧上昇によるリスクの軽減に向け活動を行っています。

その他、SNSやHPを活用し、減塩のためのレシピやむくみ解消・肩こり改善などを解消するストレッチ情報を発信することによって、社内での健康経営や、多くの方の健康な毎日のサポートを行っています。

家族や会社の同僚、友人をはじめ広く世界中の方が血圧リスクで「悩むことが無いように活動を継続していきます。



主な取組②

就労支援施設の支援

従業員向けの福利厚生イベントとして、就労支援施設で製作頂いたお菓子を配布しました。毎年行っているクリスマスにお菓子を配布する機会に「作る側」も「食べる側」もみんながハッピーになれるものを、と企画し、姫路・福島・熊本の全拠点で就労支援施設様の手作りクッキーを配布しました。誰もが何気なく食べているお菓子も作り手がいること、1つのお菓子が就労支援につながることに気づく機会になればと取り組んでいます。



会員と連携可能な強み

- ・既存設備の非接触化・・・タブレット等液晶画面を触れずに操作可能に
- ・世界最薄のビーコン（Bluetoothで位置情報を捉え情報発信する機械）の活用
- ・物販事業（他社様の技術を活用し新たな製品を企画・販売 実績:サブリ・潤滑油）

会員と連携して取り組みたい課題

- ・空中ディスプレイ技術を用いて社会の健康・クリーンにつながる製品・用途の開発
- ・小型・薄型（wearable）ビーコンを用いた新たな情報活用
- 例：アニメ・漫画・ドラマ・映画の聖地巡礼のような地域振興、スポーツ促進イベントなど





主な活動場所：福島県いわき市

主な取組①

産学官連携による伝統芸能継承への貢献

- ・伝統技術や伝統芸能で培われたノウハウを活かし、環境にも配慮した商品の開発を進めています。
- ・文化財保護を資する技術の伝承と更新への寄与として、学校等で伝統技能を体感する授業を実施しています。
2019年 富岡支援学校中学部 11回
2022年 いわき支援学校高等部 7回
- ・特別支援の生徒さんに自立支援体験型学習の実施しています。
2021年 マイ箸づくり サブタイトル：自分で作った箸で給食を食べる

伝統技法



伝統芸能で使うバチ



環境に配慮した新製品開発



生徒が手作りのマイ箸



主な取組②

安心安全な地域社会づくりと地域温暖化対策計画

- ・事業継続力強化計画と地域防災啓発に取り組んでいます。
- ・地域に根ざす事業所として、地域行政との連携による社会活動に協力しています。
- ・資源の再利用化による新たなエネルギー化や商品開発に取り組んでいます。
- ・小学校で行う授業（総合学習）でファシリテーターとして寄り添う授業を実施しています。

行政との連携活動



新たなエネルギー化の取り組み



資源の再利用化した商品



小学校で行う総合学習の様子



会員と連携可能な強み

- ・伝統芸能(工芸) 継承修理修復に関する知見
- ・東日本大震災で得た知識や知恵、体験を活かした講演を国内や海外でも実施
- 【教育機関との連携】
- ・小学校の総合学習での「防災を含めた地域将来の考え方」約8回の実施
- ・特別支援学校での「地域芸能体験学習や木工技術のレクチャー」1回～8回の実施

会員と連携して取り組みたい課題

- ・国宝など重要文化財修復技術や伝統芸能（工芸）継承に関する意見交換
- ・植林や管理などに関する意見交換
- ・ペレット製造や端材を活用した小規模型エネルギーに関する意見交換
- ・教育の場における出前講座の実施状況や成果、教育機関からの意向などに関する意見交換





主な活動場所：福島県田村市

主な取組①

アップサイクル商品の開発を通じた若者による持続的な地域づくりプロジェクト

「お茶を通じて地域を知り、地域と関わる」をコンセプトに、規格外フルーツ、耕作放棄地で自ら栽培したハーブをブレンドしたフルーツハーブティーを製造販売することで、フードロス、耕作放棄地の問題の解決に貢献しています。

また、企画から製造販売に県内の大学生、高校生が関わることで、継続的に若者が地域に関わる仕組みを同時に創出しています。商品は 11/5.6 に新宿御苑にて開催されたSDGs関連のイベント「GTF グリーンチャレンジデー2022」にてお披露目し、県内では 11/19 に観光物産館でのイベントでお披露目、その後随時 EC サイトや県内外のカフェ、セレクトショップでの販売を開始しました。

今年度は7つの生産者(福島市、伊達市、田村市、葛尾村、飯舘村)からフルーツを仕入れさせていただいており、来年は20件に増やす予定です。田村市と川内村にて計3か所の耕作放棄地で行っているハーブ栽培も来年も継続していきます。活動については主に Instagram 及び note にて発信しており、生産の裏側を消費者が知り、より福島に興味を持つ仕掛けを行っています。



主な取組②

ふくしま酒アップサイクルプロジェクト

福島県では日本酒をはじめ、ビール、ワイン、ウイスキー等様々な種類のお酒が造られています。それらの素晴らしいお酒が造られる裏側で、多くの産業廃棄があるのが現状です。日本酒であれば酒粕や米ぬか、ビールであればモルト粕など、本来は廃棄される素材を活かしてお酒のつまみを製造、ブランド化していくのがこのプロジェクトです。

第一弾として、2023年2月に田村市のビール会社「ホップジャパン」のモルト粕を活用したおつまみをリリースします。その後、県内各地の酒蔵、ワイナリー等と協働しながらお酒の廃棄物をおつまみにアップサイクルしていきます。自社製品だけでなく、県内の既存のお酒のアップサイクル商品もオンラインショップで紹介するなど、県内全体での「お酒のアップサイクル」を打ち出すプロジェクトです。



会員と連携可能な強み

食品加工、イベントの企画運営、出店等。

会員と連携して取り組みたい課題

- ・SDGs関連の商品を集めたイベント
- ・商品の共同開発。
- ・乾燥し、お茶に使用できるような規格外フルーツも県内全域から探しています。





主な活動場所：福島県郡山市

主な取組①

社内ゴミの分別・地域清掃活動の実施

社屋内ごみ箱を分別可能な様に増設し、分別による焼却処分のごみの排出量の低減及びリサイクルによる自然環境への負担低減の実現を目指しています。

また、郡山市道路維持課主催の「アイラブロード事業活動」に参加し、地域の道路周辺清掃活動を積極的に実施しています。

社内外において環境へ配慮した活動取組みを行っています。



主な取組②

社内ウォーキングイベント

社員のひとりひとりの健康意識の向上を目的に、ウォーキングイベントを開催しました。上位3名への賞品（健康グッズ）や目標歩数（8,000歩）達成者全員への景品の贈呈等、社員が目標を持って楽しみながら参加できるイベントとしました。

ウォーキングイベント
Step and step Walk rally
In autumn 2022
期間：2022/10/8～11/7

目標歩数 1日平均8,000歩

**目標歩数を達成した方全員に！
1,500円相当の健康グッズ(※)贈呈！**

さらに！

合計歩数上位3名へ健康グッズ贈呈！

※特茶1,500円分や、健康食品等を考案中（詳細未定）



健康ウォーキングを始めよう！

ウォーキングの前には必ず準備運動を


安全に効果的にウォーキングするために、スタート前にはしっかりと準備運動をしましょう。まず、靴（体を動かして血行の促進を図る）、その後、各関節の動きを伸ばすストレッチを行うと同時に呼吸もほぐしておきましょう。上半身の前後屈、足首の振り伸ばし、腰の回旋なども、しっかりと、ウォーキングの前準備にも、ストレッチを取り入れ、ふらはぎなどのマナーを着て、疲労感が軽減されます。

**理想のフォームを身につけて
ウォーキング効果を高めよう**

ウォーキングの効果を高めるには、歩幅を背骨より少し広く、歩幅が広がると、歩幅が広くなることで全身運動の効果が高まります。次に歩幅がポイントを見ながらウォーキングすると、歩幅が狭くなる歩幅を歩かなくなります。しかし、続けているうちに徐々に自然に速く、楽に歩けるようになるはずです。

運動効果を高める歩き方のポイント

- ・顔は伸ばさない
顔は自然に正面に向け、歩く動作に合わせて顔が右にゆれたりしないようにする。
- ・背骨を伸ばし、視線は15mくらい先
目を見ても遠くにならないようにする。正面を向き、背骨を伸ばせば自然に視線は前方に向けられる。
- ・呼吸は無理せず、口を閉じて
呼吸は自分のリズムでゆっくり行う。
- ・踵は自然にはかかとから足指まで
踵は力を抜いてリラックスせず、不自然な力が入って前かかとに当たったり、肩が上がったりしないようにする。
- ・歩幅は自然に歩幅、歩幅の振りも自然に
ある程度長く歩ける場合は、踵のつけ根から前脛にプロテクターのような感じで踵を大きく振る方が効果的。さらに長く歩けるは、ひざを最も高い位置に上げて歩けるようにする。
- ・踵の回転を意識して歩幅を広く
歩幅を広げて歩くには、踵のつけ根から踵にプロテクターのような感じで踵を大きく振ることも大事。
- ・つま先でしっかりと地面を蹴る
後ろ足のつま先でしっかりと地面を蹴り、前脚はその反動を使って踵を伸ばして大きく踏み出す。
- ・かかとからかかとへの歩幅
かかとからの歩幅は基本中の基本。歩幅の調整をやらずに、足首を調整するために、必ずかかとから踏み出すようにする。踵を伸ばして大きく踏み出す。自然とそうなるはず。






主な活動場所：福島県福島市

主な取組①

サーキュラーエコノミーの実現と世界標準化、リサイクル活動の認知活動

ナプロアースでは使用済み自動車を買取り「部品」や「素材」を生産し販売し「リユース」「リサイクル」する活動を進めています。生産した部品は業者向けの販売以外でも個人向け中古部品の市場開拓し準備し啓蒙しています。リサイクルされた自動車は重量ベースで99%以上が再資源化され部品以外にも「フロン類」等を法に則って回収し、地球温暖化の阻止にも貢献しています。

ナプロアースではこれらのリサイクルに関する技術の世界標準化を目指し、普及していきます。

地域の小学生・中学生、地域住民の方々へリサイクル工場を知ってもらう活動として「工場見学」「リサイクルまつり」を開催し、のべ2,000人以上の方に参加していただきました。今後も地域の方々と交流しながら工場周辺の清掃活動、慈善活動を通じて新しい価値観を作り出しています。



主な取組②

災害に強いまちづくり支援

東日本大震災において自衛隊と協力し津波による被災車両を撤去しました。また2019年の台風19号による災害の際には水害による被災車両を自治体と協力し撤去のお手伝いを行いました。

これらの実績により2020年12月に福島県伊達市と「災害時における車両等障害物除去に関する協定書」を締結しました。大規模災害が発生した際には自治体と協力し被災車両の搬送をお手伝いし速やかな復旧のお手伝いが可能となりました。現在、他の市町村にも協定に関して働きかけを行っており、取り組みを広げております。



会員と連携可能な強み

自治体と協力した速やかな災害復旧のお手伝いが可能です。また、地域へのボランティア活動として日本カーシェアリング協会の「被災者向け自動車共同利用カーシェアリングサービス」に協力しています。

さらに、弊社で展開している廃車、自動車買取サービスを通じて自動車リサイクルについての啓蒙も行っており、これらの取組は他会員様と協力、連携ができるものと考えております。

会員と連携して取り組みたい課題

- ・放置車両等の適正な管理に向けた取り組み
- ・廃車買取の適正な処理に向けた取り組み
- ・鉄、非鉄、プラスチック類の適正な処理に向けた取り組み
- ・自動車リサイクルについての啓蒙活動

これらの課題を解決する一案として弊社が展開している廃車、自動車買取の団体である「廃車のミカタ」をベースとして他の会員様との協力、連携 など





主な活動場所：福島県内全域

主な取組①

「食と放射能に関する説明会」開催

大学教授や専門家を講師とし、要望のあった企業、学校・幼稚園・保育園の保護者、町内会、サークル活動などに対して、食と放射能に関する説明会を開催しています。

また要望に応じて福島県産の米や野菜、水産物の放射能濃度の現状や健康への影響、ALPS処理水放出に係る疑問などの説明も行い、県民の不安に寄り添った活動となっており、今年度は65件の申込がありました。

食と放射能に関する説明会の様子



主な取組②

「猪苗代湖漂着水草回収除去事業」ボランティア参加

「輝く猪苗代湖をつくる県民会議」主催による、猪苗代湖漂着水草回収除去事業におきまして、実施期間中に協会加盟の各社が積極的にボランティアとして参加し、猪苗代湖の環境保全に長年協力しています。

猪苗代湖漂着水草回収除去事業の様子



会員と連携可能な強み

食と放射能に関する説明会の開催について、他の会員にも呼びかけることで大きな連携がとれると思います。

会員と連携して取り組みたい課題

福島県総合防災訓練への参加について情報をお願いしたいです。





主な活動場所：福島県郡山市

主な取組①

福島県再生可能エネルギー関連産業推進研究会の運営

「再生可能エネルギー先駆けの地」を目指して、再生可能エネルギー関連産業のネットワーク構築をはじめ、人材育成、研究開発、事業化、販路拡大、海外展開を総合的・一体的に支援しています。

福島県再生可能エネルギー関連産業推進研究会の運営を通じて企業間のネットワークを構築するとともに、各分科会（太陽光・風力・バイオマス・水素・エネルギーネットワーク）ごとにセミナー・マッチング・現地視察を開催して情報共有や再エネ分野への新規参入を図ります。

【バイオマス分科会現地視察】



【水素分科会セミナー】



主な取組②

事業化プロジェクトの創出

再エネ研究会の会員企業を構成メンバーとする、新技術・新製品の開発や新たなビジネスモデル等のプロジェクトを推進する事業化ワーキンググループを設置し、集中的なコーディネートにより事業化プロジェクトの創出を図ります。

令和4年度は新たに2つのワーキンググループを立ち上げました。

【チームやぶき 水素関連産業新規参入WG】
(令和4年5月31日設立)



【サステナブル・ソーラーふくしま】
(令和4年8月31日設立)



会員と連携可能な強み

再生可能エネルギー分野への新規参入や事業拡大を考えている会員に対して、当所がこれまで蓄積してきたノウハウを活用して、それぞれのニーズに応じた支援を行うことができます。

会員と連携して取り組みたい課題

再生可能エネルギーに対する会員の考えや取組方針等についての意見を伺い、当所の今後の業務に活用してまいりたいと思います。





主な活動場所：福島県郡山市

主な取組①

全社員の健康維持と能力開発向上

すべての社員の健康維持のため屋内禁煙を実施しています。また、自己啓発や能力開発に対する金銭的、時間的支援を行い、資格取得意欲、能力開発意欲を高め、達成感を実感することで働きがいを感じてもらい、生産性向上につなげています。

屋内禁煙



電帳法・インボイス講習



防水施工技能士資格取得助成



安全運転講習



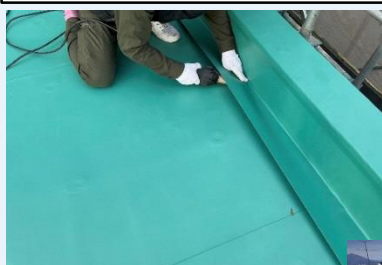
主な取組②

社業を通し持続可能な社会を実現

社業の防水工事で、高い技術力とCO2排出量削減効果のある断熱・遮熱の工法で耐久性のある建築物を実現し、住み続けられるまちづくりに寄与する取組を行っています。

作業現場では高い施工技術力と高度な施工管理力で材料のムダをなくし、材料削減することで原料製造～輸送～施工～廃棄までのCO2排出量削減に寄与することができます。

高い技術力でCO2排出量削減



廃棄物の分別・リサイクル



会員と連携可能な強み

・防水工事では施主から高い評価をいただき、信頼されています。建築物の新築、改修では防水工事はほぼ欠かせない作業であり、建築に係わるほとんどの職種との連携が可能です。

会員と連携して取り組みたい課題

・新築、改修工事において、屋根・壁の断熱・遮熱工法でCO2排出量削減に寄与していくとともに、防水、塗装、板金、左官業の会員と連携して全体の排出量削減に取り組んでいくことが課題です。





主な活動場所：福島県いわき市、田村郡三春町

主な取組①

ICTを活用した施工管理の効率化

当社ではICT建機による3D施工を行い、施工した箇所を3Dレーザースキャナで測量し、そのデータを3Dソフトで読み込み解析をして出来形・品質管理を行っています。

福島県発注の工事でのICTを活用した実績もあり、これまでにいくつもの現場でICTを活用した工事を行ってきました。

ICT技術を駆使し、安全性・生産性・環境性の向上を目指しています。

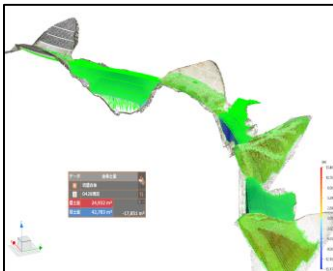
ICT建機による3D施工状況



3Dレーザースキャナによる計測状況



3Dソフトによる点群データ解析と出来形品質の評価



ICT活用工事実施証明書



主な取組②

男性の育児休業取得の推進

男女の仕事と育児の両立を支援するため、男性社員には最低で2週間の育児休業取得を、会社として推進しています。2歳までの子供をもつ男性社員を対象とし、最長で22日間取得した社員もいます。過去7年間でのべ12名が取得し、取得率は100%となっています。

イクボス宣言

イクボス宣言

- 私は、仕事を効率的にこなし、有給休暇を取得する社員を応援します。
- 私は、仕事とプライベートを両立充実させている社員を応援します。
- 私は、育児・介護をしながら働く社員を応援します。
- 私は、チームワーク力を高め、お互いサポートし合える職場環境づくりを推進します。

平成30年4月16日

企業名 福浜大一建設株式会社
役職 代表取締役
氏名 佐藤 毅

男性社員育児休業取得状況

<男性社員育児休業取得状況>

- 2015年：2名
- 2016年：1名
- 2017年：3名
- 2018年：1名
- 2019年：1名
- 2020年：2名
- 2021年：1名
- 2022年：1名

取組についてテレビ番組で紹介された時の様子





主な活動場所：福島県南相馬市（他相双管内）

主な取組①

環境保全への取り組みについて

商品として販売が出来なくなった花鉢などを「鑑見期限切れ（しょうみきげんぎれ）」と題し、格安（原価以下）で販売したり、高齢者施設や幼稚園へ寄贈することで商品（植物）の再生、再利用をしています。

環境保全への取り組み

- ・鉢植えの復活・剪定枝のウッドチップ化等、再利用の技術を活用し、再生再販や地域施設への寄贈等、有効活用と商品ロスの削減
- ・植物由来の資材・商材の活用拡大
- ・地球温暖化等環境改善に向けた全事業のCO₂排出量の削減、ゼロカーボン宣言事業への参加
- ・環境対策レベル優先の設備導入
- ・全社員のSDGsの理解と意識向上



主な取組②

地域社会への貢献について

地域の奉仕作業として、近隣の医療施設周辺などの雪が解けにくい所の除雪作業や市民参加型の植樹祭など、自社のスキルを活かせる場に率先して参加しています。また諸団体が主催の植栽（植樹祭など）に関する講師も務めています。

地域社会への貢献

- ・花と緑を通じ、すべての人々が豊かなくらしを持続する社会環境の提供
- ・当社の花と緑に関する技術と知識を積極的に活用・提案し、地域社会へ貢献
- ・体験学習による次世代育成支援の継続
- ・高齢者施設や幼稚園等、地域施設へのお花のプレゼントを継続
- ・地域防災や美化・緑化の奉仕活動継続



会員と連携可能な強み

- ・「緑と花」を通じ、都市と人間の居住地を心地よく持続可能な取り組みで連携できます。

会員と連携して取り組みたい課題

- ・SDGsの啓蒙活動を通じ、働きがいのある仕事、企業、まちづくり等を連携し取り組みたい。





主な活動場所：福島県いわき市

主な取組①

誰もがスキルアップでき、活躍できる働きやすい職場環境づくり

<社員教育>

- ・電気工事関係の資格取得推奨、テキストの無料貸し出し、資格取得制度や技術研修に係る殆どの費用を会社で負担しています。会社推奨資格については報奨金制度があります。
- ・資格取得に向けた教育サポート
- 資格取得のための就業時間内学習制度(平日)を設け、誰でもスキルアップできるような職場環境づくりを行っています。
- ・安全教育・技術教育に力を入れ、今年は4/1～4/22 約3週間かけて、新入社員教育を行いました。

<地域貢献>

- ・市内高校生を対象としたインターンシップ協力
- 令和4年度は10月18日～20日(福島県立勿来工業高等学校 4名)・12月21日～23日(平工業高等学校 4名)の日程で3日間にかけて行い、安全教育・CAD操作・配線実習・現場見学を実施しました。

就業時間内での学習の様子



新入社員実技研修 実体配線



高校生インターンシップ
での現場見学



無料貸出用テキストとDVD



主な取組②

一人一人が健康で、幸せを感じられるワークライフバランスのとれた職場環境づくり

<血圧対策>

- ・社員の休憩室へ血圧測定器の設置をしており、いつでも血圧測定が可能になっております。
- ・高血圧者へ血圧手帳の配布と受診を勧奨しております。

<ベジファーストの推進>

- ・毎年、社員へ健康診断後、サラダを提供し、ベジファースト推進の意識付けを行っております。(今年度は4月に実施)

<健康器具の社内設置と利用推進>

- ・社内ジムスペースへ健康器具を設置し、業務時間外に社員が利用できるようになっております。

<体成分測定会の実施とデータの利用>

- ・外部業者へ体成分測定会を依頼し、毎年データを収集し、社員の自己管理に役立ててもらっています。(今年度は4月に実施)

休憩室の血圧測定器



サラダ提供でベジファーストの契め



高血圧者へ配布している
血圧手帳



社内ジムスペース



会員と連携して取り組みたい課題

- ・他社のSDGs取組を知りたい。
- 自社で取り組み、改善できる内容があれば、取り込んでいきたいです。





光建工業株式会社



目指す主要ゴール

主な活動場所：福島県郡山市

主な取組

建設現場におけるワンコイン(安価)での熱中症対策自販機の展開

弊社では総合建設業を営む企業として、建設現場の安全衛生の向上が必須となっております。

その中で、夏期は熱中症のリスクが非常に高いため、各種対策を講じておりますが、一番のポイントとなる現場作業員さんの水分補給について検討を進めておりました。

弊社の協力会（「光建会」）とも協議を進め、安全対策予算の中から、敢えて赤字でワンコイン（例：麦茶であれば定価140円を100円、または50円）と安価にし、手軽に熱中症対策飲料が買えるよう、取り組みを進めております。

本年（2022年）も計400本以上の販売と、本自販機を設置した現場では熱中症での事故が発生しなかったため、今後も展開を進めて参ります。



会員と連携可能な強み

- ・ 一級建築士等、技術者が在籍しており、建築に関わることであれば連携がしやすいです。
- ・ 首都圏や仙台の企業とも比較的取引が多く、営業エリアを広範囲に有しています。

会員と連携して取り組みたい課題

地元の子もたちや、福島の未来のために連携して取り組んでいきたいと考えております。

〒963-8811 福島県郡山市方八町二丁目13番9号

【H P】 <https://koken-kk.co.jp/>

【TEL】 024-941-3200 【MAIL】 info@koken-kk.co.jp（担当：管理部総務課 櫻井）



株式会社 寿鉄工所



目指す主要ゴール

主な活動場所：福島県いわき市

主な取組

プラスチックごみの低減の推進

プラスチックごみの低減のため、お客様への飲み物の提供時や、社内での飲料水やコーヒーを飲む際に、マグカップやティーカップの使用を推進します。

そのほか、毎年健康診断を必ず実施し、社員が健康で、未来にわたり安心して働ける職場環境の整備するとともに、事務所、工場、詰所の照明のLED照明への切り替えを進め、廃材、ダンボール、コピー用紙などのリサイクルとごみ削減を推進し、コピー用紙の使用量の低減、およびペーパーレス化に取り組むなど、地球環境に配慮した取り組みを行っています。



〒971-8111 福島県いわき市小名浜大原字甲新地63-2

【H P】 <https://kotobuki-ironworks.jp/>

【TEL】 0246-53-4235

【MAIL】 kotobuki-mail@ktbk-ironworks.sakura.ne.jp（担当：那須）





サーマルデザイン株式会社

13 気候変動に
具体的な対策を



目指す主要ゴール

主な活動場所：東京都千代田区

主な取組

夏季・冬季のエアコン室外機節電対策

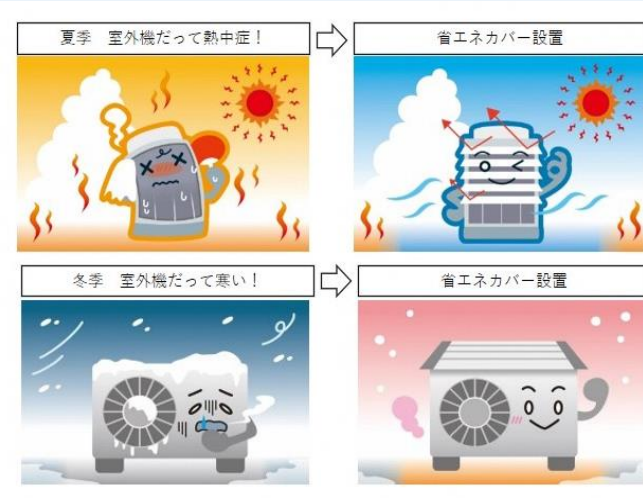
エアコンの室外機は、非常に過酷な場所に設置されています。そのため夏季・冬季に無駄な電力を消費します。

弊社では、室外機本体及び設置面への特殊な遮熱断熱塗料の塗布や、同時に特殊塗料を塗布したルーバーの室外機吸入口への取り付けを推進しています。

その効果として、夏季は直射日光および設置面からの輻射熱（ふくしゃねつ）が抑制され、室外機が吸込む外気温度が下がり節電となります。

冬季は室外機および室外機吸入口にあるアルミフィンの凍結予防となり、暖気運転時間が短縮することで節電となります。また、室外機の負荷軽減に伴い室外機の寿命も伸びます。

地球のために今すぐできる気候変動対策です。



〒101-0032 東京都千代田区岩本町3-8-8中和秋葉原ビル4F

【HP】 <http://thermal-d.co.jp/>

【TEL】 03-5809-1705 【MAIL】 minamide@thermal-d.co.jp (担当：南出)



福島県商工会女性部連合会

12 つくる責任
つかう責任



目指す主要ゴール

主な活動場所：福島県内

主な取組

レジ袋削減「エコバッグ作成」

ごみの削減や、それに伴う二酸化炭素などの温室効果ガスの削減、レジ袋の原料となる原油の節約（資源保護）などを目的に、掲示期間終了したポスターやカレンダーを利用したエコバッグ作成を推進しております。

福島県商工会女性部連合会役員や各商工会女性部長が講師となり、女性部員や地域の方へ作り方講習会を開催したり、YouTubeで作り方の配信を行い広く周知しています。

作成したエコバッグは、レジ袋の代わりに各自の店舗でご希望のお客様へ商品を入れてお渡しし大変好評をえています。



会員と連携可能な強み

県内には88商工会があり、エコバッグ作成も県内商工会女性部員を中心に広く周知活動しております。

会員と連携して取り組みたい課題

ゴミ減量化やリサイクルなど環境に配慮してまいります。

〒960-8053 福島県福島市三河南町1番20号コラッセふくしま9階

【HP】 <https://f.do-fukushima.or.jp/joseibu/>

【TEL】 024-525-3411 【MAIL】 soshikishien@do-fukushima.or.jp





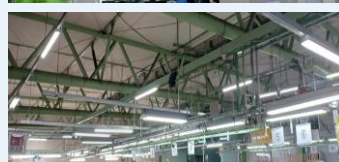
主な活動場所：福島県西白河郡中島村

主な取組

消費電力量の削減

電力消費量の削減を計画的に進めており、2022年度実績として、EHPの高効率化機器への入替、工場内照明のLEDタイプへの入替を実施しました。

EHPについては計8台2266kw/月削減、照明については1063本の蛍光灯をLEDタイプに変更し、6778kw/月の削減となりました。



会員と連携可能な強み

- ・県との連携で水資源の確保や水環境の保全にて阿武隈川上流部に位置する弊社の位置環境から清掃活動や水質保全活動への参加協力。
- ・県内の自治体や企業と協力し農産物の規格外商品を弊社専用輸送便にて県内フードバンクNPO法人や弊社相模原事業所近隣の子供食堂への無償配送配布。それによる県の復興に向けた農業産品のPRと子供たちの健康増進と飢餓防止。

会員と連携して取り組みたい課題

- ・県内自治体や企業と連携し弊社相模原事業所近隣の子供食堂利用者への食品提供と子供たちを招待した農産物の収穫体験。
- ・白河事業所を中核とし、近隣企業と共にフードポスト活動で集まった食品や備蓄品をフードバンクNPO法人へ寄付をする活動。
- ・「空気環境を変える」をビジョンに取り組む企業とし商品の開発や従業員のボランティア活動など自治体、企業と広く協力し、環境課題で連携できます。

〒961-0102 福島県西白河郡中島村大字滑津字大池向11-2

【HP】 <https://www.fujioh.com>

【TEL】 0248-52-2905

【MAIL】 tetu-suzuki@fujioh.com (担当：鈴木)

-FUJIOH-





主な活動場所：福島県郡山市

主な取組①

WITH (一緒に) ♥ 社会と協働するローカルSDGs実践 「山の学校」プロジェクト

NPO法人しんせい（障がい者就労支援事業所）と国立環境研究所、さらに企業や地域の方々と高校生と一緒に、よりよい社会について学んでいます。「山の農園」や「コミュニティ福島」を会場に、フィールドワークや講義により、里山や森林保全、気候変動などについて学び、「環境」、「平和」や「働くこと」についてのグループディスカッションで、対話的に学びを深めています。「山の学校」はこれまで7回実施。（年間10回予定）さらに、ここでの出会いから、夏休みに高校生が事業所でボランティア活動やフラダンス講習を行ったり、企業の集会でフラダンスや紙芝居の披露をしたりしました。また、郡山市の農家の米粉と人参、里山のヨモギを使ったふくしまSDGsクッキーを作り、県内外に発信しています。

「山の学校」フィールドワーク 森林管理を学んでいます



「山の学校」講義 国立環境研究所の研究者から みんなで学びます



「山の学校」から広がった活躍の場 自作の紙芝居と一緒に上演しました



ふくしまSDGsクッキー 里山の魅力とおいしさを発信します



主な取組②

WITH (一緒に) ♥ 社会と協働するローカルSDGs実践 「裏磐梯SDGs学習旅行を考える」プロジェクト

「裏磐梯ウォーターエデュケーション」と名付け、裏磐梯観光活性化協議会と協働で、環境学習旅行について考えるプロジェクトを行いました。事前に、裏磐梯観光活性化協議会の方を講師に、裏磐梯の水環境や植物や動物の多様性について学び、さらに、「裏磐梯をフィールドに、どのような環境教育学習ができるか」をテーマにグループワークを行い、たくさんのアイデアを出しました。

そのアイデアの中から、実際にモニターツアーとして「裏磐梯ウォーターエデュケーション」を実施し、グランデリゾートにおいて「百貫清水トレッキングと水の飲み比べ」、小野川湖での「カヌー・SUP体験と湖上アート」を行いました。事業に参加した生徒は約70名です。

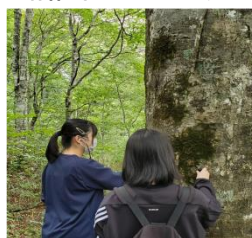
「裏磐梯SDGs教育旅行」 のアイデアを話し合います



企画として採用されたアイデア カヌーで湖上アート 自然の豊かさを感じ慈しむ心を育てます



体験から学ぶ環境学習 ブナの木の音を聴診器で聞く 森林の保水力を学びます。



駆除した内田ザリガニを使った 「森と湖のブイヤベース」他にもレシピ考案 中。多様性を学びます



会員と連携可能な強み

- ① 福島県の役に立ちたい！！ 人や地域、社会貢献したい！！ ボランティア精神が旺盛です。
- ② 1人からグループ、委員会、部活動、講座、クラス、学年、学校全体とニーズに対応できます。
(自分の足元からできることを活動しているのでマッチングできれば協働できます。)

会員と連携して取り組みたい課題

福島県の魅力発見PR活動、地域の課題探究活動、地域のグローバル化に関すること、インバウンド





主な活動場所：福島県耶麻郡猪苗代町

主な取組①

よみがえれ！猪苗代湖！！～猪中型資源循環サイクル～

地域団体と連携・協働し、猪苗代湖の天神浜に打ち上げられた水草の除去作業をしています。また、三城潟のヒシをとり、猪苗代湖の水質保全活動をしています。さらに、美しい風景を守るため、湖畔清掃ボランティアへの参加者を募り、地域の方々と活動しています。

陸の豊かさを守るため、回収した水草で紙づくりをしたり、水草を肥料にしてコキアを栽培したりしました。

水草で紙作り



統合前に3校合同で水草とり



湖畔清掃ボランティア



水草肥料でコキアを栽培



主な取組②

ムダのない やさしい社会をつくろう～猪中型資源循環サイクル～

地球温暖化の原因である二酸化炭素の削減と、資源循環サイクルのシンボルとして、コキアの栽培を行っています。以前は学校周辺に栽培していましたが、今年度は地域団体と連携・協働し、町の花壇にコキアを植えました。成長したコキアの使い道を生徒たちが考え、ほうきやクリスマスツリーを作りました。

私たちの思いを広げ、水質改善・環境保全をみんなでかなえるために、様々な機会
で取組を発表しています。

コキアで作った
クリスマスツリー



成長したコキア



コキアでほうき作り



一般のフォーラムにおいて
水環境保全活動を発信



会員と連携可能な強み

社会に開かれた教育課程を踏まえ、町内の様々な機関
団体と教育活動を実践しています。

会員と連携して取り組みたい課題

生徒たちが実践を発表・発信できる場や、互いの実践を
聞きあう場があれば参加させていきたいです。





主な活動場所：福島県郡山市

主な取組①

SDGsプロジェクト

総合的な学習の時間では、企業や大学と連携し、社会課題を発見・解決・実現する活動に取り組んでいます。

1学年では、日大工学部を訪問し、ロハスの意味やクリーンエネルギーを活用した「ロハスの家」などを学びました。その後、「ロハス実現のためのアイデア」を考案し、発表やディスカッションを行いました。

2学年では、那須ハイランドパークでの職場体験・インタビューから、実社会における課題発見し、解決策の提案を行いました。提案から採用までの過程を経験しています。

体験・インタビューの様子



オンラインでのプレゼンの様子



大学院とのディスカッション



代表者によるプレゼンの様子



主な取組②

愛のフードドライブプロジェクト

総合的な学習の時間に取り組んでいたSDGsの活動が、「愛のフードドライブプロジェクト」という形で、受け継がれています。メンバーは、有志を毎年募集し、生徒主体で活動しています。

月に1回、食品の回収を行い、連携する団体にお渡ししています。

全校生徒への呼びかけ



回収の様子



フードドライブについての掲示物



会員と連携して取り組みたい課題

現状と課題からミッション形式で課題をいただく。

- ①中学生で考え、提案する。
- ②提案内容をプレゼンし、評価をもらいながら再検討する。
- ③提案の導入を行う。

①～③を繰り返し、実社会の課題を解決していく活動に取り組みたいと考えております。





主な活動場所：福島県南会津郡只見町

主な取組①

新聞紙レジ袋

プラスチックゴミを減らすために、多くの人に手に取ってもらいやすいレジ袋を新聞紙で作成してみようという生徒の提案をきっかけにこの取り組みが始まりました。

レジ袋の有料化に伴ない、飛躍的に需要が増え現在も町内のコンビニエンスストアや薬局などで新聞紙レジ袋を取り扱っていただいています。

毎週90個程度の新聞紙レジ袋の作成だけでなく、発注・在庫確認も委員会の担当生徒が行っています。

また、「新聞紙レジ袋作成教室」を対面やオンライン形式でも行っており、町内外にもこの取り組みを広めようと活動しています。



主な取組②

PET Free Monday(ペットフリーマンデー)

「PET Free Monday(ペットフリーマンデー)」とは、一週間のうち月曜日だけはペットボトルを利用しないようにしようというものです。この取り組みを学校だけでなく、家庭や地域にも広めペットボトル飲料の利用を抑制したいと考え、冷蔵庫などに貼れるマグネットを作成しました。

只見中学校のオリジナルキャラクター【らっくん(生徒デザイン)】が描かれたマグネットを、生徒の家庭、教職員の家庭に配布したり、県内外での自分たちの活動を発表する場においても紹介・配付し、積極的に活用していただけるよう呼びかけを行っています。

PET Free Mondayの取組

私たち只見中生と先手方としてその家族は、地球温暖化防止の観点から1週間に1度ペットボトル入りの飲料を飲まない運動を行います。

実施方法

- ・ 毎週月曜日は、ペットボトルの飲料を飲みません。
- ・ 合い言葉は「ペット飲料 飲まなデー」
- ・ 月曜日に部活動の大会があってペットボトルを利用した日は、自分でその週の中でペットボトルを休む曜日を設定します。
- ・ 学年単位は町内の小学校、高校にも広めます。
- ・ 家族等でもどうしても買ってしまった方が、買めてはいけません。
- ・ ペットボトル入りの醤油や、ドレッシング等はこれに含まれません。

2021年10月13日

只見中学校 生徒会長
只見中学校 SDGs 委員長



会員と連携可能な強み

当町ではユネスコエコパークにおいて自然の保護保全、調査研究、自然との共生、持続可能な地域社会構築に向けての取り組みを既に行ってきたため、様々な分野においての知見や研究成果などを通して連携できることと思われる。

会員と連携して取り組みたい課題

再生可能エネルギーや地球温暖化防止、地域内スマートシティの取り組みです。





主な活動場所：福島県福島市ほか

主な取組①

学生有志団体「GreenGreen」によるSDG s すごろく・かるた作成、啓発活動

- ・SDGsの目標達成のため何をしたらいいかを学生が自ら考え主体的に行動することで、持続可能な社会実現を目指します。
 - ・昨年度は「かるた」を作成。読み札には目標達成につながる行動と対応したアイコンを表示。学生が企業に協賛金をお願いして作成し、福島市内の小学校に寄贈しました。
 - ・今年度は「すごろく」を作成。マス目には知識を身に付けながら自分事として捉え行動を起こせるような工夫をしました。
 - ・ワークショップ参加者からは、かるたやすごろくの体験を通し、「自分事として考えるきっかけになった」との反響がありました。
- すごろくは誰でも使用できるようダウンロード用URLを公開しています。

【ダウンロード用URL】<https://drive.google.com/drive/folders/1r4jmOqqjGB7ILK4IWtKXBK5-Z94iG035>



主な取組②

食物栄養学科特別研究プロジェクト「はらくっちゃん」による食育科学ワークショップの企画、実践

- ・子どもが健康的な食習慣を身につけるきっかけとなるよう、親子が楽しく食について学ぶことのできるワークショップの実践を目指します。
- ・調理の体験ができる料理教室の側面だけではなく、食べ物の成分や材料、食べ物ができるまでの過程を知ることができるような実験を含む科学実験教室の側面も持ち合わせたワークショップを企画し、実施しました。
- ・本プロジェクトに取り組む学生が、将来、栄養士として多くの一般市民の健康維持に貢献できるよう、「食」や健康を取り巻く環境の問題を科学的に追究し、論理的に思考する能力を持ち、自ら積極的に行動する人材を育成することも目指しています。



会員と連携可能な強み

SDGsに関連するシンポジウムやセミナー、イベントへの参加などです。





主な活動場所：福島県福島市

主な取組①

授業「総合的な探究の時間」での取組

毎週水曜日の6時限目に、全校生がSDGsをテーマに17のグループに分かれ、3年間通して探究活動を行っています。

授業内に組み込まれていることから継続性があり、主体的・対話的で深い学びにつながっています。また、特定の生徒だけでなく、全校生が取り組むことにより、より多様な意見を反映させながら探究活動を行うことができます。

調べ学習や課題解決学習だけでなく、実際に学校の外にフィールドワークをしながら実践も行っています。

【荒川の環境調査CODの測定】



【廃棄野菜を使った料理を考える】



【いじめ・差別を考える演劇】



主な取組②

女子のスラックス着用

上記の探究活動のうち、「ジェンダー平等を実現しよう」を探究している班の1つが、女子のスラックス着用についてアンケートを実施した結果を分析し、生徒会や学校に働きかけ、校則を改定し、女子のスラックス着用に結び付けました。

SDGsの探求をきっかけに具体的な変革につながった実例であり、取組の様子は新聞にも掲載されました。

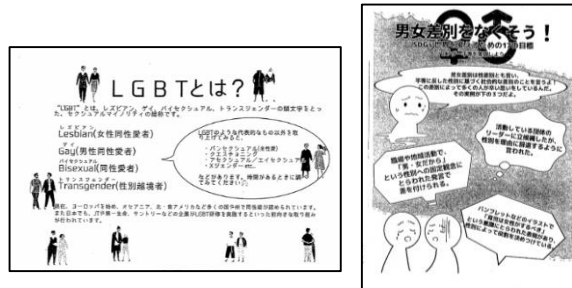
【校長室で要望を伝える様子】



【新聞掲載写真】



【班で作成し、校内に配布したリーフレット】



会員と連携可能な強み

福島市内外の企業や病院、保育施設など、幅広い分野と生徒たちが協働して取り組むことができます。

会員と連携して取り組みたい課題

生徒のアイデアを外部団体と共に取り組み、持続可能な社会に貢献したいと考えています。





県立福島高等学校

17 パートナリシップで
目標を達成しよう



目指す主要ゴール

主な活動場所：福島県福島市

主な取組

「化学肥料削減に向けた異科接ぎ木」～タバコで達成するSDGs～

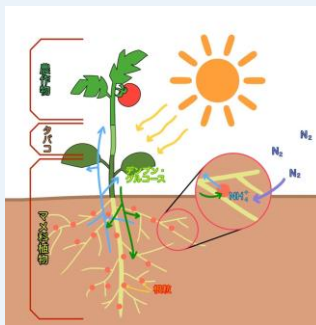
私たちは、昨今の化学肥料に関する環境問題の解決を目標とし、自力で十分な栄養を作り出せる農作物の栽培方法の確立をめざしています。そこで、窒素固定が可能である根粒菌に着目しました。

窒素固定とは、空気中の窒素を生物が利用できるアンモニウムイオンに変えることで、マメ科植物の根に共生する根粒菌などが行うことができます。この仕組みを利用し、身近な技術である接ぎ木を用いて、農作物とマメ科植物の根を接ぎ木するという手法を考えました。

一般に接ぎ木は近縁種の植物間でしかできませんが、例外的にタバコは様々な種類の植物と接ぎ木できることがわかっています。そのためタバコを仲介すれば異科接ぎ木が可能となります。

現在は、接ぎ木に慣れ、成功確率を上げるためにマメ科植物であるソラマメのみでの自家接木を行っています。

何度か失敗を重ねる中で、成功確率を上昇させることが出来ました。今後は、タバコとソラマメの二種類で接ぎ木を行っていく予定です。



▼接ぎ木前



▼接ぎ木後



〒960-8002 福島県福島市森合町5-72

【HP】 <https://fukushima-h.fcs.ed.jp/> 【TEL】 024-535-2391



伊達市立 伊達中学校

7 エネルギーをみんなに
そしてクリーンに



目指す主要ゴール

主な活動場所：福島県伊達市

主な取組①

ふくしまゼロカーボン宣言

生徒会本部を中心に、節電や節水のポスターを作成して掲示したり、広報委員会から節電や節水の放送、評議委員会による移動教室時の消灯確認を行いました。



主な取組②

リサイクル運動

昇降口付近に、リサイクルボックスを設置して使わなくなった制服やジャージ等の回収を行い、業者に引き取っていただいています。



〒960-0502 福島県伊達市箱崎字沖110番地

【HP】 <https://www3.schoolweb.ne.jp/weblog/index.php?id=0720037>

【TEL】 024-583-3025 【MAIL】 date-j@fcs.ed.jp (担当：遠藤)





主な活動場所：福島県岩瀬郡天栄村

主な取組

天栄村湯本の資源を活かしたアントレプレナーシップ教育で地域に遺す

令和4年度で閉校となる本校では、令和3年度より総合的な学習の時間を中心にアントレプレナーシップ（起業家精神）教育を取り入れ、湯本地域における新しい価値を創造する模擬起業体験を行っています。

全校生徒2名が地域や関係者と密接につながっており、この強みを生かして地域の魅力発掘や課題解決のための探究学習を推進してきました。昨年度はクッキーや和菓子といった商品の企画・開発・販売に取り組み、今年度はさらにSDGsや地域との連携強化の視点を取り入れた活動を展開しています。

活動の趣旨に賛同した地元生産者及び製造・販売業者の協力の下、地産地消を意識し地元産野菜の消費にこだわるとともに、規格外野菜の利活用や環境に配慮したパッケージを採用する等、新たにクッキーとパンを開発しました。また、今年度末で閉校となる本校としては、最後の卒業生が考案した当商品が各製造・販売事業者で今後も継続して商品化され、湯本地域の魅力の発信源となり、高齢化や人口減少の顕著な当湯本地域の活性化のための呼び水となるよう、普及及び販売戦略も工夫しています。



〒962-0622 福島県岩瀬郡天栄村大字田良尾字五倫林山10

【HP】 <https://tenei.fcs.ed.jp>

【TEL】 0248-84-2009 【MAIL】 yumoto-j@fcs.ed.jp





主な活動場所：福島県福島市

主な取組①

ひょう害に負けるな！～くだもの生産者支援と食品ロス削減に向けて～

令和4年6月、福島県内でひょうが降り、福島市内においても、一部地域でモモ、ナシ、リンゴなどのくだものに傷がつくなどの被害があり、通常の出荷ができない状態となりました。ひょう害果といえど、傷ついた部分を除けば美味しさは変わりません。そこで、市は、くだもの生産者を応援するためのポータルサイトを開設し、ひょう被害の状況やひょう害果の直売情報などを発信し、全国に応援と支援の輪を広く呼びかけるとともに、生産者の配送・集荷・出店手数料などへの支援を行いました。また、9月に開催された「ふくしまSDGs博」(主催：福島民報様)にブースを出展するなど、多数のイベントでひょう害果の直接販売を行い、市産農産物の魅力発信とひょう被害に対する支援の呼びかけを行いました。当該取組を通じて、経済の側面から持続可能な農業を目指すとともに福島のかだもの美味しさを広く発信し、また環境の側面から廃棄を防ぐことで食品ロス削減にも貢献していきます。

【ポータルサイトURL】<https://farmers-support.jp/>



ひょう害に負けるな！農業者支援サイト



ひょう被害を受けたモモ(左)とナシ(右)



ふくしまSDGs博へのブース出展

主な取組②

ごみ減量に向けた市役所としての取組～職員提案募集と実践～

福島市は1人1日あたりのごみ排出量が全国的にも多く、ごみの減量が課題となっています。ごみを減らすことは、処理に要するコストとともに温室効果ガス排出量の削減にも寄与することから重要な取組です。こうした中、市役所も一事業者として率先して取り組むべく、職員に対してごみ減量に係る提案募集を行いました。結果24件の提案があり、取組事例として実際にごみの減量につながった「ごみ箱1個でごみ減量」などが紹介され、市役所全体で取組を進めています。

かえるチャレンジ
職員の皆さんの「ごみ減量アイデア」を募集します！

ごみ減量 × 職員提案 大募集

【募集内容】
とにかく、ごみの減量に資するものであればOK!
市役所のみならず、自宅や地域での取組もOK!

職員への提案募集の案内

実践例をご紹介します！
～水道総務課・定住交流課～

水道総務課
職場で出るごみをどうしたら減らせるか、なぜごみを減らさなければいけないかを話し合い、ごみ減量に取り組みました。ごみ箱には、ごみを減らすと職員賞金を減らすことができます。また収集や処理に関する費用についてもわかりやすく記載した冊子の配布が図られました。素晴らしい取組ですね！

定住交流課
9月から個別のごみ箱を無くし、課内のごみ箱を1つにした定住交流課。まだ始めたばかりですが、毎月の月間と比較すると、1.4kgのごみ量を削減できたそうです！「多少の不慣れはありますが、その不慣れが、ごみを減らす意識づけにつながっている」とお話しくださいました！

取組事例の周知

会員と連携可能な強み

目標11「住み続けられるまちづくりを」、目標17「パートナーシップで目標を達成しよう」を全ての施策の共通目標とし、「経済・社会・環境」に関する取組を幅広く展開しています。

会員と連携して取り組みたい課題

「第6次福島市総合計画まちづくり基本ビジョン」における各種施策をベースとし、本市の課題解決を図りながら、SDGsにも貢献できる取組について連携して進めたいと考えています。





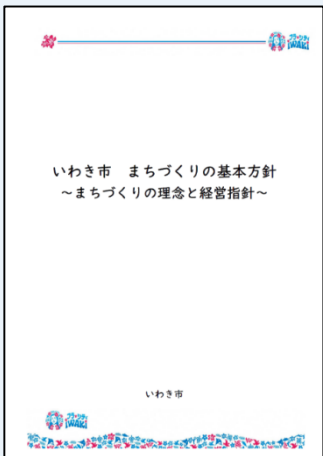
主な活動場所：福島県いわき市

主な取組①

「いわき市まちづくりの基本方針」とSDGsの関連性を踏まえた事業推進

いわき市では、最上位計画であった総合計画に代えて、様々な環境変化や喫緊の課題等について、市民の皆様と行政が共有し、共に柔軟に対応できるよう、新たな時代にふさわしいまちづくりの進め方を示した「いわき市まちづくりの基本方針」を策定しています。

同方針において、本市が重点的に取り組む3つのテーマ（①暮らしを守る安全・安心の充実強化、②ひと・まち・しごとの充実強化、③共創力の充実強化）とSDGsとの関連性を明記しており、SDGsの理念を踏まえながら、各分野で事業推進を図っています。



(検索ワード)

いわき市 まちづくりの基本方針

<p>①暮らしを守る安全・安心の充実強化</p> <p>□危機事象への対応力・回復力を高める</p> <p>6 6. CLEAN WATER AND SANITATION 7 7. AFFORDABLE AND CLEAN ENERGY 13 13. CLIMATE ACTION 17 17. PARTNERSHIPS FOR GOALS</p> <p>□地域の課題への対応力・回復力を高める</p> <p>3 3. GOOD HEALTH AND WELL-BEING 12 12. RESPONSIBLE CONSUMPTION AND PRODUCTION 13 13. CLIMATE ACTION 14 14. LIFE BELOW WATER 15 15. LIFE ON LAND</p> <p>□一人ひとりの暮らしを支える力を高める</p> <p>1 1. NO POVERTY 2 2. ZERO HUNGER 3 3. GOOD HEALTH AND WELL-BEING 4 4. QUALITY EDUCATION 8 8. DECENT WORK AND ECONOMIC GROWTH</p> <p>10 10. REDUCED INEQUALITIES 16 16. PEACE, JUSTICE AND STRONG INSTITUTIONS</p>	<p>②ひと・まち・しごとの充実強化</p> <p>□地域人材を育成する(ひとづくり)</p> <p>1 1. NO POVERTY 4 4. QUALITY EDUCATION 10 10. AFFORDABLE AND CLEAN ENERGY 16 16. PEACE, JUSTICE AND STRONG INSTITUTIONS</p> <p>□地域価値を向上させる(まちづくり)</p> <p>3 3. GOOD HEALTH AND WELL-BEING 6 6. CLEAN WATER AND SANITATION 7 7. AFFORDABLE AND CLEAN ENERGY 11 11. SUSTAINABLE CITIES AND COMMUNITIES</p> <p>□地域産業を振興する(しごとづくり)</p> <p>2 2. ZERO HUNGER 8 8. DECENT WORK AND ECONOMIC GROWTH 9 9. INDUSTRY, INNOVATION AND INFRASTRUCTURE 12 12. RESPONSIBLE CONSUMPTION AND PRODUCTION 14 14. LIFE BELOW WATER 15 15. LIFE ON LAND</p>	<p>③共創力の充実強化</p> <p>□まちづくりの主体力を高める</p> <p>4 4. QUALITY EDUCATION 5 5. GENDER EQUALITY 10 10. AFFORDABLE AND CLEAN ENERGY 17 17. PARTNERSHIPS FOR GOALS</p> <p>□理解と信頼を得られる行政を構築する</p> <p>11 11. SUSTAINABLE CITIES AND COMMUNITIES 16 16. PEACE, JUSTICE AND STRONG INSTITUTIONS 17 17. PARTNERSHIPS FOR GOALS</p>
--	--	---

主な取組②

産学官連携による「いわきアカデミア」の取り組み

いわき市では、人口減少・少子高齢化が進む中、将来にわたりまちの活力を維持していくため、次代を担う人材の育成・人財還流に向け、産学官が一体となって教育プログラムを展開する「いわきアカデミア」に取り組んでいます。

主な取組みとして、市内の高校生を対象に、市内企業の現場等を訪問・体験し、経営者などの仕事への情熱や職業観などを聴く機会を設け、市内企業の理解の促進に繋げるとともに、自らの進路や生き方を考える場を提供する「いわき発見ゼミ」などを行っています。



(検索ワード)

いわきアカデミア





白河市



目指す主要ゴール

主な活動場所：福島県白河市

主な取組

女性に寄り添うライフ・ワークサポート事業

働きたいと考えているものの子育てによるブランクにより就職に不安がある女性などを対象に、就職または再就職への支援を図ることを目的として、「はたらく」に関連するテーマについて参加者同士で話し合う『ママのしゃべり場』、就労相談や求人のおっせん等を無料託児サービス付きで行う『個別相談会』、短時間勤務・ワークシェアリングを取り入れた就労支援モデルの仕組みづくりのための『実証実験』、女性の雇用促進や多様な働き方を推進するための『事業者向けセミナー』などを実施しています。



主な取組

夏休み 親子で学ぶ環境学習教室

未来を担う子供たちに環境意識を高めてもらうため、企業から講師を招き、工作キットを組み立てながら、暮らしの中のエネルギーや太陽光発電のしくみ、LEDについて学ぶ環境学習教室を開催しました。



会員と連携して取り組みたい課題

市民のSDGsへの関心を高めるような広報活動等

〒961-8602 福島県白河市八幡小路7番地1

【HP】 <http://www.city.shirakawa.fukushima.jp/>

【TEL】 0248-22-1111 【MAIL】 kikaku@city.shirakawa.fukushima.jp (担当：前田)



伊達市



目指す主要ゴール

主な活動場所：福島県伊達市

主な取組

児童の農業体験等と地元作物の実食について

児童が地元作物の収穫・見学等の農業体験をし、農家から農業の楽しさや苦勞を学び、給食センターの栄養技師による栄養学講座で、農産物の栄養について学びました。

また、地元作物を給食により実食し、産地の魅力や理解を深め、食の大切さを学びました。



〒960-0692 福島県伊達市保原町字舟橋180番地

【HP】 <https://www.city.fukushima-date.lg.jp/>

【TEL】 024-575-1142 【MAIL】 seisaku@city.fukushima-date.lg.jp (担当：大槻)





主な活動場所：福島県南会津郡只見町

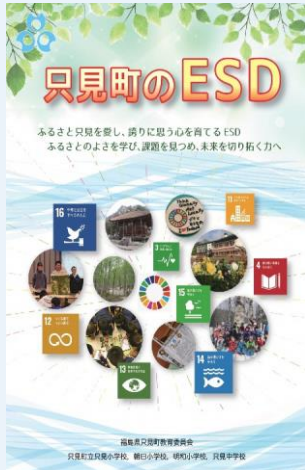
主な取組①

只見町ESDパンフレットの作成

只見町の小中学校は、H26～28年度において、順次ユネスコスクールに認定され、ESD（持続可能な開発のための教育）に取り組んできました。持続可能な世界を創る人材を育てることを目指して学習活動を行っています。

学校発の取組を周知し、町民一人一人意識しながら生活していただけるよう、パンフレットを作成して、町全戸に配布しました。

ターゲットごとの目指す町民像やそれに対する教育分野の取組、各小中学校の取組についても紹介しています。パンフレットは「只見町教育ポータル」で検索し、見ることができます。



主な取組②

ESDパートナー締結

ESD（持続可能な開発のための教育）の推進やSDGsの達成に向けて、町教育委員会、町立小中学校、只見高等学校の代表で構成したESD推進委員会と町内企業や団体（9団体）とでパートナー締結をしました。

企業・団体には、SDGsの視点を取り入れて、小学校の農業体験や県立只見高等学校の職場体験などを実施していただいたり、中学校で作製した新聞レジ袋や米袋を再利用した焼酎袋、ブナの木SDGsバッジなどを活用していただいたりしています。また、教育委員会でSDGs講座を実施し、企業研修として職員に参加していただいたりしています。



代表・校長の他、中学生も参加



企業従業員・教員・地域住民が参加するSDGs講座



学校のESD・SDGsの取組を企業側からバックアップ



会員と連携可能な強み

学校との連携を模索することができることです。学校と地域企業（団体）との連携を図るために立ち上げた、ESDパートナー企業・団体に登録する企業・団体と情報を共有したり、連携した取組を行うことが可能です。

会員と連携して取り組みたい課題

町内の子ども達やESDパートナー企業との取組を広く発信していきたいです。他の様々な会員の方の取組を知る機会があると嬉しいです。





会津坂下町

17 パートナースHIPで
目標を達成しよう



目指す主要ゴール

主な活動場所：福島県河沼郡会津坂下町

主な取組

SDGsによる施策管理

町が実施する施策が、SDGsの理念である「誰一人取り残さない」や、全ての町民のための施策となっていることを明確にするため、SDGsによる施策管理を実施してまいります。

【会津坂下町第六次振興計画】



【SDGsと会津坂下町第六次振興計画実施計画の関係図】

SDGs目標	SDGs目標																
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17
第六次振興計画実施計画	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
1 暮らしは学びあひとつくり	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
2 安全・健康で、快適な暮らしづくり	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
3 活力と魅力があるまちづくり	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
4 暮らしが豊かになるまちづくり	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
5 地域運営の強化	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

〒969-6592 福島県河沼郡会津坂下町字市中三番甲3662番地
【HP】 <https://www.town.aizubange.fukushima.jp/>
【TEL】 0242-84-1504 【MAIL】 seisaku@town.aizubange.fukushima.jp (担当：永山)





主な活動場所：福島県福島市

主な取組①

DRY FLOWER PROJECT

廃棄寸前の花をアップサイクルし、ドライフラワーや様々な商品にして販売するプロジェクトです。製作過程には若者やママ、高齢者まで幅広い世代が参加しています。

企画・運営、販売プロデュースは高校生・大学生が行うことで次世代の人材育成にも寄与します。

また、売り上げの一部は子ども食堂をはじめとした子ども支援団体に寄付し、地域全体で子どもを支える循環型の地域を生みだします。



主な取組②

無料塾FOU'S STUDIO

ひとり親家庭を含め様々なご家庭を対象に、教育格差をなくし、楽しみながら学ぶことを目的とした子ども食堂型の無料塾です。



会員と連携可能な強み

高校生や大学生メンバーと共に地域をフィールドとして様々な課題解決に取り組むことで、次世代育成につながるともに、持続可能なまちづくりを行うことができます。

会員と連携して取り組みたい課題

- ・若い力を生かして地域の様々な課題を解決するプロジェクト
- ・子ども支援や無料塾を中心とした子どもを支えるまちづくり





主な活動場所：福島県郡山市

主な取組①

誰一人取り残さない「無料・低額診療事業」

生活保護基準には至らないまでも厳しい経済的事情にある方が、医療機関の受診を控えることがないよう、病院（桑野協立病院）独自の基準を設けて、該当者の医療費自己負担分を減免する事業。（社会福祉法に基づく）

2019年10月からスタートし、2022年3月までのべ116件の方が対象となり、外来受診、入院で医療サービスを提供しました。本人からの申請が基本ですが、職員の「気づき」により、生活実態を聴いて利用につながるケースもあります。

広報チラシ

無料または低額で医療が受けられる
無料・低額診療事業のご紹介

郡山医療生活協同組合 桑野協立病院
☎024-933-5422

1. 対象となる方	2. 減免の範囲
① 生活保護を受けないが医療費、病院料が自費と判断した場合 ② 介護人、ホームレスの方等、保護費をお持ちでない方	① 医療費の自己負担額 ② 入院費、検査料等（自己負担額） ③ 入院費、検査料等及び食事療養費の自己負担額
3. 減免の基準	4. 減免の手続き
① 生活保護受給者は該当しないが、世帯の収入が以下の場合で医療費負担が困難な場合 ○1世帯の世帯収入が、前年度住民税課税標準額の120%以下は減免対象 ○1世帯の世帯収入が、前年度住民税課税標準額の140%以下は減免対象	① 医療機関の通病や生活が改善するまでの一時的な措置となります。 ② 任意の決定、要請による「任意の減免」は、実施しません。 ③ 申請期間：1月1日～3月31日 ④ 申請先：郡山協立病院 受付課

申請・利用するには

- ① 対象へお申し込みください。医療費をご案内いたします。
- ② 申請書に必要書類は、相談員が書類も申請書を作成し、記入もサポートします。申請料不要です。
- ③ 2週間以内に承認・不承認を通知します。承認されたら、申請料を返却いたします。

モテルケース(例) 郡山協立病院

- ① 高齢者世帯(世帯収入 25万円) 1世帯の世帯収入が 75,000円以下 ⇒ 申請料 0円、申請料 0円
- ② 2人暮らし(世帯収入 25万円) 1世帯の世帯収入が 75,000円以下 ⇒ 申請料 0円、申請料 0円
- ③ 母子世帯(世帯収入 25万円) 1世帯の世帯収入が 75,000円以下 ⇒ 申請料 0円、申請料 0円

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



主な取組②

地域住民と専門職のパートナーシップによるヘルスプロモーション（健康づくり）活動

福島県からの「健康長寿」「健康寿命の延伸」を目指して、地域住民と専門職（医師、看護師、理学療法士、管理栄養士、薬剤師、介護士など）がパートナーとなり、健康に関する学習や実践を各地で展開しています。特に高齢者のフレイル予防、減塩、生活習慣改善に力を入れて、ヘルスプロモーション活動としています。近年は「SDGs学習会」もおこなっており、地域の団体や学校（中学校・高校）から依頼を頂いています。



理学療法士による運動指導



自治体イベントでの乳がん検診啓発活動（看護師）



地域住民を対象とした「SDGs学習会」の開催

会員と連携可能な強み

- ① 講座への専門職派遣
健康づくりをメインとしつつ、医療、介護分野の講義や実践指導などが可能です
- ② SDGs講座
「SDGsってなに？」の学習会
※ 昨年度12回開催し約150名参加

会員と連携して取り組みたい課題

- ① 福島県民の健康づくりを推進する活動
- ② 目指すゴールが共通する企業・団体様との実践交流





福島市子ども食堂NET



目指す主要ゴール

主な活動場所：福島県福島市

主な取組

フードドライブ

福島市の子ども食堂において、様々な課題解決や人材育成を実施し、ネットワークの強化を行うことで、横のつながりで子ども食堂を支え、様々な支援をつなげる仕組みを構築し、持続可能な子ども食堂を生み出していきます。

ご家庭で余っている食品を持ち寄って必要としている人に届けるフードドライブでは、集まった食品をネットワークに加盟している子ども食堂を中心とした加盟団体にお届けしています。企業や大学の協力もあり、多くの団体と連携しながらフードロス削減、子ども支援に寄与することができました。



会員と連携可能な強み

子ども食堂をプラットフォームとして、食材支援やボランティアでの協力を通じ、繋がりの中で子どもたちを支える地域を生み出していきたいです。

会員と連携して取り組みたい課題

ひとり親家庭への支援や様々な課題を抱える子どもたちの支援

〒960-8021 福島県福島市霞町9-18
【HP】 <https://fukushimaibasyo.beans-fukushima.or.jp/network/>
【TEL】 080-4184-9438 【MAIL】 d-etou@beans-fukushima.or.jp (担当：江藤)





主な活動場所：福島県内全域

主な取組①

SDGs経営簡易診断サービスの実施

当社は19業種別のSDGsチェックシートを用いた「SDGs経営簡易診断サービス」を無料で実施しております。地域社会の持続的な発展に向け、診断を受診されたお客様には「診断結果報告書」+「無料オンライン面談サービス」をご提供させていただきます。このサービスにはSDGs宣言書の作成支援や自治体企業登録制度申請アシストサービスも含まれており、多くのお客様をふくしまSDGs推進プラットフォームにご紹介させていただいております。

2022年の当サービス開始以降、本県内で300を超える企業・団体様にご利用いただき、大変ご好評いただいております。



診断結果		得意名	2022/12/28
業種	食品	株式会社 ●●	法人
業種別スコア	79	業種別スコア	79
SDGs達成率(平均)	79%	SDGs達成率(平均)	79%
リーディング項目	環境	SDGs達成率(平均)	79%
SDGs達成率(平均)	79%	SDGs達成率(平均)	79%

SDGs経営簡易診断サービスとは、SDGs経営導入の目安となる100項目のチェックシートを用いて、SDGs経営の現状を把握し、改善の方向性を示すサービスです。診断結果報告書と無料オンライン面談サービスを提供いたします。

1. 診断結果報告書(100項目)を入手
2. 改善方向性を示すSDGs経営簡易診断サービス
3. 診断結果報告書(100項目)を入手
4. 診断結果報告書(100項目)を入手
5. 診断結果報告書(100項目)を入手
6. 診断結果報告書(100項目)を入手

主な取組②

テレマティクス技術を活用した地域の暮らしの安全・安心に関する取組

当社のテレマティクス自動車保険はデータ・デジタル技術を活用し、「事故を未然に防ぐ」「万が一の事故時には影響を減らし、回復を支援する」という新たな価値を提供することで、事故の無い快適なモビリティ社会の実現を目指しております。

また2022年12月には郡山市との共同開催で約1,000名の市民にご参加いただき、「エコドライブ・交通安全コンテスト」を開催させていただきました。

あいおいニッセイ同和損保は、CSV×DXを通じて福島県のお客様・社会の未来を支えつづけます

福島県とあいおいニッセイ同和損保は、地域の暮らしの安全・安心の確保等に繋がる包括連携を継続しています。

「CSV×DX」と「テレマティクス自動車保険」

テレマティクス自動車保険を通じて実現したいこと

- 01 事故のない安心な暮らしづくり
- 02 社会インフラのデジタル化対策
- 03 エコドライブ普及

郡山市所在の企業・団体の皆さまへ

エントリー大募集!!

エコドライブ・安全運転コンテスト

初心者歓迎! エコドライブ・安全運転コンテスト形式のイベントを開催します。エコドライブ・安全運転コンテスト形式のイベントを開催します。エコドライブ・安全運転コンテスト形式のイベントを開催します。

コンテスト概要

2022年12月1日(水) ~ 2022年12月31日(土)

コンテスト期間

開始日時: 2022年12月1日(水) 11時00分~11時30分

終了日時: 2022年12月31日(土) 11時00分~11時30分

対象者

個人・法人関係者(1人1台) ※詳細は募集要項をご覧ください

参加費

無料(送料1,000円)

申し込み

募集要項の参加申込方法の通り、Webで申込みください

主催

あいおいニッセイ同和損害保険(株)

共催

郡山市、日本生命保険相互会社

お問い合わせ

あいおいニッセイ同和損害保険(株) 福島支店 福島県郡山市 電話:024-922-9270 福島県 郡山市

会員と連携可能な強み

・SDGs経営・ESG経営を地域企業様が実現するためのサポート（「SDGs経営導入自己チェックシート」や「カーボンニュートラル入門セミナー」）のご提供により福島県のSDGs推進に協力します。





主な活動場所：福島県内全域

主な取組①

「TOHOキッズcaféキャラバン」

「地域社会の輝く未来を担うこどもたち」への支援事業として、県内各地の「こども食堂」へキッチンカーに乗ったキャラバン隊が訪問し、こどもたちの金融リテラシー向上と健やかな成長を支援しております。

【金融・SDGs教室の開催】

金融・SDGs教室を開催して、こどもたちに社会に必要な金融の基礎的知識の普及に努める他、SDGsの啓蒙活動を実施しております。

【こども食堂の活動支援】

こどもたちの健やかな成長と明るい将来をコンセプトとしたオリジナルのキッチンカーで、こども食堂を訪問し、お弁当の配付を通じて、食育活動を応援しています。

TOHOキッズcaféキャラバン



主な取組②

「とうほうSDGsサポートサービス」

当行では、お客さまのSDGsへの取組みを後押しするため、2021年12月に「とうほうSDGsサポートサービス」を創設しました。お客さまへのヒアリングを通して、SDGsへの取組状況や、現状の課題を洗い出し、解決策を銀行の担当者とお客さまと一緒に考えております。

2022年12月19日現在、福島県内を中心に168社からお申込をいただき、64社の宣言書を当行ホームページにリリースしております。

とうほうSDGsサポートサービス

会員と連携可能な強み

東邦銀行グループ全体や外部機関とのネットワークを活用し、課題解決のための多様なソリューションの提供が可能であり、本プラットフォームの会員の皆さまのSDGs推進をサポートしてまいります。

会員と連携して取り組みたい課題

福島県内のSDGsの理解度・浸透度が課題の1つであることから、理解度の向上・機運醸成に向けた取り組みを目指します。

また、その先にある個別課題の見える化・課題解決に向けたサポートに取り組んでまいります。





主な活動場所：福島県中通り地域

主な取組①

電気自動車によるCO2排出量の削減

令和4年7月22日にトヨタ自動車株式会社の小型電気自動車「C+Pod」20台を郡山市内店舗に導入しました。導入する支店の駐車場内には電気自動車の充電設備を整備し、来店するお客様の電気自動車の充電にご利用いただくことが可能です。

当組合ではこれまで、営業活動にはガソリン車およびバイクを使用してきましたが、ガソリンは電気に比べCO2排出量の排出係数が高いことを鑑み、電気自動車の導入を決めました。



主な取組②

みどりのまちづくり運動

郡山市が掲げた「水と緑の町づくり」のスローガンに共鳴する形で平成8年4月からスタートした取組です。チャリティーバザーや商店街イベントでの収益金で地元町内に桜の苗木やアサガオの鉢植えなどを配布しています。

新型コロナウイルス感染症拡大の影響で中止を余儀なくされていましたが、今年度は当組合取引先の異業種交流会「十店会」からの協力で二本松支店・松川支店でアサガオを、安積支店でひまわりの苗を配布することができました。





主な活動場所：郡山市、福島市等 16 営業拠点所在自治体を中心とした市町村

主な取組①

「みんなの健活プロジェクト」による健康寿命の延伸

健康増進型商品・サービスや運動機会の提供等を以下記載の3つのステップを通じ、お客さまなどの健康増進をサポートしています。

【健康を「知る」】

- 健康状態や病気のリスクを知る独自のサービスを提供します。

【健康を「つくる」】

- 対面・非対面を問わず、楽しんで参加できるイベントをご案内します。

【健康増進を「続ける」】

- 健康をささえ、応援する商品をご提供しています。

【大人の塗絵コンクール】

認知症予防に効果があるとされている塗絵



【Jリーグウォーキング】

8月27日 とうほう・みんなのスタジアム



【明治安田ゴルフトーナメント】

10月13日 東北大会



主な取組②

「地域の元気プロジェクト」による地方創生の推進

各自治体との連携協定をベースに、地域と連携した取組やスポーツ応援などを通じ、地域のみなさまが安心できる交流機会をサポートしています。

取組に関連するゴール



【祭事への助成や参画】

10月28日 二本松の菊人形
ベジチェック測定会 地元野菜もプレゼント！



【自治体連携各種イベント】

11月6日 福島市 J3リーグ観戦婚活イベント



【道の駅への助成や健康測定会】

11月5日 道の駅ふくしま東和



会員と連携可能な強み

福島県下 2 支社総勢 800 名による、足を使った情報伝達・発信活動や、昨今コロナ禍環境下も踏まえた LINE 等の SNS を使用した情報発信

会員と連携して取り組みたい課題

健康測定機材を使用した、健康に対する意識醸成測定会イベントの会員企業等従業員向けイベントやセミナーの実施





主な活動場所：福島県二本松市

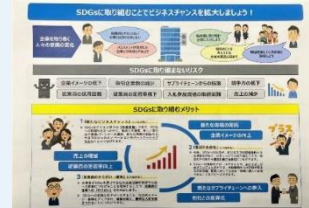
主な取組

企業のSDGs経営のPDCAサイクルのご支援・サービス

企業様の経営理念やお考えを聞き、「環境」「社会・職場環境」「組織体制」「サステナブルな取組」の4つの分野について取組が進んでいる点や課題などが見える化をして課題解決のお手伝いをしています。

また、保険代理店という強みを活かして東京海上日動グループで提供できる支援サービスを提供させていただき、地域の皆様と企業様と一緒に成長できるよう活動しております。

そのほか、ペーパーレス推進やオンライン会議、EV車の活用などを実施し、普段の活動がSDGsの推進に繋がるようにしています。



会員と連携可能な強み

PDCAサイクルの支援ができるため、診断レポートを作成しそれを基にSDGs宣言書を作成することができます。また、保険を活用して企業・従業員をお守りすることができます。

会員と連携して取り組みたい課題

SDGs自体を深く学んでいきたいです。そこから気づきを得たいです。

〒964-0904 福島県二本松市松岡266-4

【HP】 https://doc-req.tokiomarine-nichido.co.jp/ht1721/DairiMapServlet02?key=091202064__01

【TEL】 0243-23-5780 【MAIL】 v-sh-16-v@e-advice.co.jp (担当：高橋)





主な活動場所：福島県郡山市

主な取組①

ごみ拾いを県民運動に！

福島県はごみの排出量が全国ワースト2位という現状を受け、番組やイベントを通してごみに関する意識向上を図る取組です。「ゴジてれChu！」番組内の毎週月曜の特集「ブンケン歩いてごみ拾いの旅」では、県内出身の俳優・鈴木文健さんが地域の方と交流しながらごみを拾う姿を放送し「ごみを出さない、捨てない、拾う」というメッセージを広く伝え続けています。この取組は本年の日本民間放送連盟賞「放送と公共性」部門で優秀賞を受賞し全国の放送局からも注目を集めました。その他自治体や企業と連携した「県内一斉清掃」などを企画しごみ拾いへの意識を喚起しています。

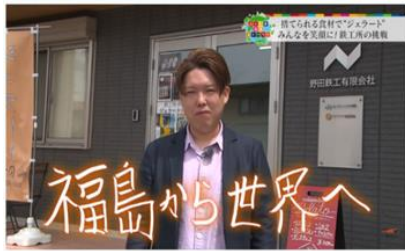


主な取組②

SDG s の取り組みを行う企業の紹介番組制作

自社制作番組「ふくしま未来ストーリー」で、SDG s に取り組む企業や団体を紹介し活躍の場を広げるきっかけ作りに取り組んでいます。2021年4月の放送開始以来、33の企業・団体を紹介し、YouTube上でも公開しています。番組モニターの感想によって視聴者のSDG s の理解度や関心を知ることができ、番組やイベントなどでSDG s についてわかりやすく伝え認知を広げることを目指しています。また自社としては、本社の電力を100%再生可能エネルギーに切り替え、年間約950トンのCO2削減に取り組みました。

ふくしま未来ストーリー



会員と連携可能な強み

ごみ拾い活動を複数の企業・団体の方々と一緒に取り組んできたことから、環境活動に真剣に取り組む皆さんと連携しメディアとして伝えることで、ごみ拾い・ごみ削減の輪を広げていくことが強みと考えています。

会員と連携して取り組みたい課題

震災からの復旧復興や自然災害に強い県づくり、女性の活躍推進について、皆さんと連携して①番組などを通して知ってもらうこと、②実際にイベントや番組で一緒に行動することを繰り返しながら課題解決を目指します。





主な活動場所：福島県南会津郡南会津町

主な取組①

遊休農地の有機農地転換事業

年々増加傾向にある、地域内の遊休農地を、雑草・灌木類の除去から耕耘までを行い、野菜等の栽培耕地に甦らせて、自然の循環に適合する農業技術の実証圃場を造成します。その上で、農業生産（自適農栽培）技術習得の研修地として、循環可能な環境の維持に寄与する活動を展開しています。

来期は、当該活動と平行して、「福島県里山林整備事業」に参加し、農産物への獣被害防止策の実証実験を検討しています。

この取組により、就業人口の減少（流出等）がもたらす、遊休農地の拡大と空き家の増加をくい止め、環境に負荷を掛けず経費負担の少ない農業経営と人手不足解消に向けた、関係（定住）人口の創出を実現し、集落力を持続させます。



実施場所：南会津町（館岩地域）湯ノ花
実施時期：令和4年10月～11月
実施者：愛twoランドみなみ農産部
実施規模：約5.0 a

主な取組②

科学的自然適合型農法の実証事業

現在、慣行的に行なわれている農業生産技術（化学肥料の投入や除草及び虫害防止のための農薬散布）は、土壌汚染や水環境に負荷を掛けるばかりでなく、世界的な「気候変動による災害」と無縁ではないとの認識を以て、これとは異なる（身近な有機資材と微生物の働きに着目した）技術「自然の循環に適合する科学的農法」を実証するための取組みです。

地域内における「里山と農地の関係性」を重要な生産形態と位置付け、賦存する有機資材の活用を図り「科学的で多様な自然界の働き」を実践・実証することで、身近な資源（資材）の有効性を導き出し、持続する環境と健全な農産物の安定供給拠点を構築します。

実施場所：①南会津町（田島地域）田島寺前
②南会津町（館岩地域）貝原
実施時期：令和4年6月～11月
実施者：愛twoランドみなみ教育部・農産部
実施規模：①田島：3.0 a ②貝原：2.0 a



会員と連携可能な強み

- ①無農薬・無化学肥料栽培の科学的実証技術
- ②ミネラル物質を含む土壌内養分等の診断技術
- ③生活のライフスタイル及び行政的課題解決の対応力
- ④人的ネットワーク力

会員と連携して取り組みたい課題

- ①遊休農地の除草（刈り払い作業）と圃場整地の機械作業化
- ②森林整備で行なう間伐材等の丸棒加工
- ③鳥獣被害防止柵（加工丸棒）の設置作業
- ④有機無農薬（無化学肥料）農産物の安定販売



主な活動場所：福島県内各地

主な取組①

明日へ繋ぐふうせんかずらの旅プロジェクト

地球温暖化防止の取り組みの一環として、また持続可能なプロジェクトです。県内各地にいるガールスカウトが共に「ふうせんかずら」を育て種を取り、それを周りの人にも広げ、翌年、翌々年…と繋げていきます。

SDGの17の目標のうち、13「気候変動に具体的な対策を」と15「陸の豊かさを守ろう」につながる取り組みですが、収穫した種を多くの人に広げることで、17「パートナーシップで目標を達成しよう」にもつながると考えています。ふうせんかずらの花言葉には「一緒に飛びたい」「あなたとともに」などがあります。私たちの思いは、この花言葉にも込められています。

皆さんも一緒に育ててみませんか？



主な取組②

「ジェンダー平等を実現しよう」へ向けて

ジェンダー平等実現のため、「Stop the Violence」「me and them」「Free Being Me」など様々なプログラムを展開しています。活動を通して、自己肯定感を高め自分の可能性に気付くとともに多様性を認め合ったり、社会にある問題を理解し、社会をよりよくするために自分ができることを考え行動をおこしていきます。

2022年9月24日、25日に開催された「ふくしまSDG s 博（主催：福島民報社）」では、「学校の中のジェンダー」に関するアンケート調査やカナダと日本におけるジェンダー問題についてパネル展示したり、ジェンダーに関する意識調査を行いました。

調査結果を基に、よりよい社会の実現に向けて活動を続けていきます。



会員と連携可能な強み

ガールスカウトは、より幸せな社会と未来の実現を目指し、リーダーシップを発揮できる女性を育てています。他団体とのパートナーシップの構築を大事に、また重きを置いて活動しており、県教育庁（社会教育課）をはじめとして、各自治体や報道機関とも積極的に繋がりを持っています。



主な活動場所：福島県郡山市

主な取組①

ゴミの減量化

教育・保育施設である本園の果たすべき役割は非常に大きいと考え、本園では、子ども達も教職員も積極的にSDG sに取り組んでいます。本園のランドデザインにもSDG sを位置付け、「なぜ？ どうすればいいの？」を大事にし、行動化できる子どもを目指しています。

エコ活動として、裏紙を使いお絵かきしたり、裏紙印刷を実践しています。絵本が破けたら、こども達自身で直し、さらに大切に使用しています。



主な取組②

節電・節水

①水をこまめに止めて手を洗う場合と②水を流っぱなしの状態です手を洗う場合とで水の量を比べました。また、歯磨きの際、水はコップに半分の量で行ったり、一人一人水筒を持参して水分補給を行ったりするなど取り組んでいます。





こまがた元気会



目指す主要ゴール

主な活動場所：福島県喜多方市

主な取組①

「こまがた元気マルシェ」の開設

令和4年5月より農産物直売所を開設し、地域の生産者の方々の自主的な運営により、新鮮な野菜類の販売活動を行い、地域内での地産地消に取り組んでいます。



主な取組②

やおびくに「会津の八百比丘尼さま」絵本の作成

歴史・文化等の地域資源を後世に繋ぐ取組みの一環として、当駒形地区に伝わる八百比丘尼尊の伝説を、子どもたちにも分かりやすい絵本として2000部作成し（令和4年7月完成）、地区内約700世帯のほか喜多方市や会津方部を中心に学校・公民館等の公共施設へ配布しました。



会員と連携可能な強み

持続可能な地域づくりに向け、遊休農地を活用した地産地消の取組などを進めようとしており、更なる里地・里山の資源を活かした事業経営・起業等に関心のある会員との連携・協力を図りたい。

（※11の目標「住み続けられるまちづくりを」は、都市だけでなく、過疎地域を含む持続可能な地域づくりと理解しています。）

会員と連携して取り組みたい課題

地域資源を活かした事業・活動を進める上でのノウハウや核となる人材が地元には少ないため、外部の力を活用させていただきたいこと。

〒969-3504 喜多方市塩川町中屋沢字田中乙3

【HP】 <https://f-ninaite.jp/job/12927.html>

【TEL】080-2805-1050 【MAIL】 koma.genki7.7@gmail.com (担当：大平)





主な活動場所：福島県福島市

主な取組①

機関紙「ふくしまの進路」による情報発信・情報共有

当研究所の機関誌「福島県の進路」において、SDGsに関連する様々な記事を掲載し、読者の皆さまに役立つ情報や企業・団体の先進事例などを発信しています（冊子版・デジタル版いずれも無料）。

- ①生産性新聞との共同取材企画「地域発！現場検証シリーズ」において県内企業・自治体・団体等の取材記事を全国に発信。
- ②SDGsなどに取り組む企業・団体等の取材記事を通じて先進事例等を紹介。
- ③主要省庁（経済産業省・環境省・復興庁・農林水産省など）や有識者（大学教授・弁護士・税理士など）の寄稿記事を掲載。
- ④景気動向調査、人口推計、雇用動向、時事的なテーマでの自主研究レポートを公開。



主な取組②

専門家プラットフォームの形成

2022年9月、当研究所所属のアナリストに加え、これまでに企業経営や上場支援・事業再生等に関する豊富な知識と経験を有するコンサルタントや、地元を中心に活動する公認会計士・税理士・中小企業診断士・社会保険労務士、さらには弁護士や企業経営者等が参画し、より専門的でかつ高度なコンサルティング事業を展開する「専門家プラットフォーム」を形成しました。

東邦銀行グループをはじめとした外部協力機関とも連携しながら、より専門的な知見に基づいた高度な経営課題の解決を支援するとともに、自治体や経営者の皆さまの立場に立った地域完結型のコンサルティング体制を構築します。



会員と連携可能な強み

機関誌「福島県の進路」の出版事業を通じて、県内の地公体、企業・団体、大学・短大などの産官学連携を重ねてきた実績があり、各種専門家との連携も生かしてSDGsの達成に取り組めます。

会員と連携して取り組みたい課題

機関誌の情報発信力を活かし、先進的な事例の紹介などを通じて、全県的なSDGs推進にかかる意識醸成、具体的な取り組みにかかる気づきや課題の共有などに貢献できるよう取り組みます。





ふくしまSDGsプロジェクト 推進コンソーシアム

17 パートナーシップで
目標を達成しよう



目指す主要ゴール

主な活動場所：福島県全域

主な取組①

ふくしまSDGsプロジェクト

昨年8月、ふくしまSDGsプロジェクト推進コンソーシアム（日本青年会議所 東北地区 福島ブロック協議会、福島県商工会議所連合会、福島県商工会連合会、福島県ユニセフ協会、福島大学、JAグループ福島、事務局・福島民報社）を立ち上げ、ふくしまSDGsプロジェクトを始動しました。

SDGsに対する認識を高め、さらなる行動の活性化を支援し、古里ふくしまで一つでも多くのゴールズを達成することを目標に活動中です。SDGs出前授業の開催をはじめ、SDGsポスター、SDGs未来新聞の募集・発表など、小・中・高校を中心にSDGs教育に主眼を置いた活動を展開中です。ポスターや未来新聞などは多数の作品が寄せられ、公式サイトにすべて掲載中です。また、年度末には1年間のプロジェクトの活動・新聞記事などを小冊子にまとめ、県内すべての市町村、小・中・高校、大学に無料配布しています。

SDGs関連ニュースを公式サイトに掲載しているほか、小中学校などを対象にSDGsの出前授業も積極的に展開しています。

SDGsポスターと未来新聞の贈賞記事

SDGsポスター、未来新聞
最優秀の2人たたえる

学校賞の清水小も

SDGs関連ニュースの紹介

SDGs ニュース

新聞紙上での プロジェクト活動紹介

ふくしまSDGs プロジェクト始動

公式ホームページ

ふくしまの課題解決をみんなの手で

主な取組②

SDGsへの産官学の取組を紹介する小冊子の発行及び無料配布

年度末に県内の企業・団体、学校などのSDGs活動をまとめた小冊子を発行し県内の全小中学校、高校、大学に無料配布しています。

公式サイトに無料ダウンロードできるPDF版を掲載し、教育機関でも活用や閲覧を促しています。小冊子はA4版約30ページ、フルカラー。

「ふくしま みんなのSDGs」発行

ふくしまSDGsプロジェクト推進コンソーシアムは国連の持続可能な開発目標（SDGs）の達成に向けた県内の活動を紹介する冊子「ふくしま みんなのSDGs」を発行した。

コンソーシアム全構成、支援する企業団体、大学、県などの活動や今後の展望を紹介。ふくしまSDGsプロジェクトを進めている作品募集や公開講座などの取り組み、福民報社の連載記事「SDGs 福島から未来へ」も掲載した。

県内の活動を紹介する冊子「ふくしま みんなのSDGs」を、小中学校、高校、大学、県庁に届けた。

「ふくしまSDGs」発行
A4判、三十ページ、県内全小中学校、高校、大学、県庁に届けた。

お問い合わせはコンソーシアム事務局の福島民報社企画推進部 電話024-531-4161へ。

SDGs推進に向けた県内の活動を紹介する冊子

会員と連携可能な強み

さまざまな企業・団体に「ふくしまSDGsプロジェクト推進コンソーシアム」に賛同、協力してもらうことで、企業と企業、人と人を繋ぎます。誰一人取り残さず、いつまでも笑顔が広がる福島を共に育んで参ります。

会員と連携して取り組みたい課題

多くの企業・団体に本コンソーシアムに参画してもらい事務局がその活動を周知する。教育機関と連携して県内の子どもたちのSDGsへの理解を深めることで、福島県のよりよい未来づくりの後押しをする。

〒960-8068 福島県福島市太田町13-17（事務局：福島民報社内）

【HP】 <https://sdgs.fukushima.jp/>

【TEL】 024-531-4161 【MAIL】 narita@fukushima-minpo.co.jp（担当：成田）



ふくしまSDGsアワード 応募取組一覧

令和4年12月にエントリーを募集いたしました「ふくしまSDGsアワード」につきまして、全29団体の皆様からエントリーいただきました。たくさんのエントリー、ありがとうございました。

エントリーいただきました取組の概要を紹介させていただきます。取組の詳細については、下記のホームページ、もしくはSNSをご覧くださいませと幸いです。

<ふくしまSDGsアワード受賞団体>

本アワードの受賞3団体は下記のとおりです。(50音順に記載)

顕彰・講評については、令和5年3月5日に開催した「ふくしま復興とSDGsを考える県民シンポジウム2023」にて実施いたしました。

- 猪苗代町立猪苗代中学校 『よみがえれ！猪苗代湖！！～猪中型資源循環サイクル～』
- 只見町立只見中学校 『海洋の視点を付加した只見中のESD』
- 株式会社 福島中央テレビ 『ごみ拾いを県民運動に！』

<ホームページ>

<Facebook>

<Instagram>



ふくしまSDGsアワード顕彰式の様子

一般社団法人CARNIVAL WORKS



～DRY FLOWER PROJECT～

廃棄寸前の花をアップサイクルし、ドライフラワーや様々な商品にして販売するプロジェクトです。製作過程には若者やママ、高齢者まで幅広い世代が参加しています。

企画・運営、販売プロデュースは高校生・大学生が行うことで次世代の人材育成にも寄与します。

また、売り上げの一部は子ども食堂をはじめとした子ども支援団体に寄付し、地域全体で子どもを支える循環型の地域を生みだします。



～建設現場におけるワンコイン(安価)での熱中症対策自販機の展開～

弊社では建設業を営む企業として、現場の安全衛生の向上が必須です。夏場は熱中症リスクが非常に高く、現場作業員の水分補給について検討を進めました。

社内での協議を経て、自販機の飲料をワンコイン(例：麦茶…定価140円を100円または50円)にし、手軽に熱中症対策を行えるようにしています。2022年も計400本以上販売し、設置現場では熱中症事故が発生しなかったため、今後も展開していきます。

ガールスカウト福島県連盟



～明日へ繋ぐふうせんかずらの旅プロジェクト～

県内各地のガールスカウトが「ふうせんかずら」を育てて種を取り、それを周りにも広げ、翌年、翌々年と繋げていきます。

気候変動への対策と陸の豊かさを守ることに繋がる取組ですが、収穫した種を多くの人に広げることで、17「パートナーシップで目標を達成しよう」にも繋がります。

県内にふうせんかずらの花が咲くよう、皆さんも一緒に育ててみませんか？

県立福島西高等学校



私たちがやるべき課題とは

世界規模の活動を数人の高校生が達成するのは嬉しい
まずは、自分たちが“健康”とはなんなのか、を知る必要がある

そこで私たち、福島県の高校生は健康とは何か、を知るために身近なツールを使って
班員が試してみた



14問正解 / 全30問中

全員の正答率の平均を
測った結果

30問中
平均13問
これはなかなかの事象です

もうひと息。がんばれ!

22問正解 / 全30問中

合格おめでとう!

問題の中で正答率の低かったものをいくつか例に挙げてみます

問7.

福島県民の1日あたり野菜摂取量(平均)
は、都道府県別に見ると何番目に多い?
(平成28年)

①2位 ②20位 ③42位

正解は②!

福島県民の1日あたりの野菜摂取量は男性347g、女性314gで、共に全国2位です!

- 世界規模の課題が沢山ある中で、まず私たち高校生は“健康”について知識や理解を取り入れることが大切だと思った。
- 今回紹介したクイズの中で、福島が提供している福島健康アプリや福島県が健康長寿に向けた三本柱、福島県が推進しているチャレンジ福島県民運動など、福島県民でありながらも知らないことがたくさんあり、まずは健康についての知識を取り入れ、**それを生かす事**が重要だと思った。
- 私たちにできることは少ないけれど、一人一人の行動が課題解決へ繋がる道を作れると思った。

～健康とは何か～

福島県が運営する健康に関するサイトを活用して、健康に関するクイズに自分たちが挑戦しました。その結果を分析して、正答率が低かった問題を課題として捉え、解決策を考えました。

株式会社福島民報社



～ふくしまSDGs博の開催～

令和4年9月に郡山市で、楽しみながらSDGsを学ぶ「ふくしまSDGs博」を初開催しました。著名なゲストがSDGsの重要性を来場者に呼びかけ、中高生がイベントの中で得た学びを「未来宣言」にまとめ閉幕の際に発表しました。浪江町産の水素から発電した再生可能エネルギーでメインステージの電源を賄いました。約1万6千人が来場し、未来を自分事に考え、SDGsを実践していく第一歩となりました。

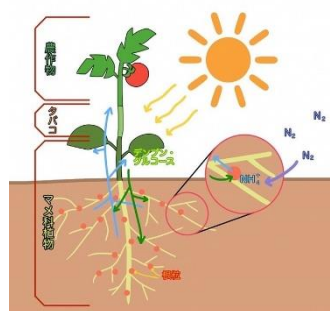
福浜大一建設株式会社



～ヤギ・馬・羊を活用したエコ除草～

三春ダム施設現場において、現場付近にある牧場よりヤギ、馬および羊をレンタルし、動物に草を食べてもらうことで除草作業を行いました。期間は7月から9月で、子ヤギ2頭、羊2頭、ポニー2頭の計6頭で行いました。除草剤や芝刈り機等を使用しないため、環境に優しい取組です。環境の保全のみならず、除草費用のコスト削減、ダム職員と見学者の交流にも繋がっています。

県立福島高等学校



～「化学肥料削減に向けた異科接ぎ木」～タバコで達成するSDGs～

私たちは、化学肥料に関する環境問題の解決を目標とし、窒素固定が可能である根粒菌に着目しました。窒素固定の仕組みを利用し、接ぎ木の技術を用いて農作物にマメ科植物の根をつなげる手法を考えました。一般に接ぎ木は近縁種の植物間でしかできませんが、例外的にタバコは様々な種類の植物と接ぎ木できることが分かっているため、今後はタバコとソラマメの二種類で接ぎ木を行っていく予定です。

天栄村立湯本中学校



～天栄村湯本の資源を活かしたアントレプレナーシップ教育で地域に遺す～

今年度で閉校となる本校では、アントレプレナーシップ教育を取り入れ、新しい価値を創造する取組を行っています。全校生徒2名が地域と密接につながっている強みを生かし、地域の魅力発掘や課題解決のための探究学習を推進してきました。地域の協力の下、地元産の規格外野菜の利活用や環境に配慮したパッケージを採用し、クッキーとパンを開発しました。当商品が今後も継続し、地域活性化のための呼び水となるよう工夫していきます。

郡山ザベリオ学園中学校



～SDGsプロジェクト～

総合的な学習の時間では、企業や大学と連携し、社会課題を発見・解決する活動に取り組んでいます。1年生は日大工学部を訪問し、クリーンエネルギーを活用した「ロハスの家」などを学びました。その後、「ロハス実現のためのアイデア」を考案し、発表やディスカッションを行いました。2年生は那須ハイランドパークでの職場体験・インタビューから、実社会における課題を発見し、解決策の提案を行いました。

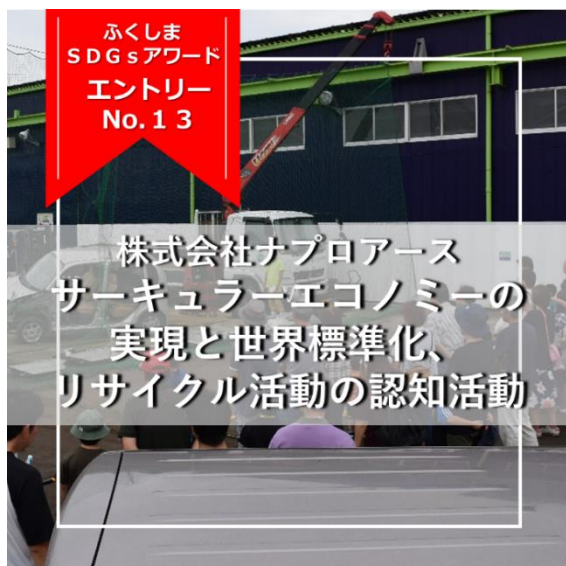
一般社団法人とうほう地域総合研究所



～日本生産性本部との共同取材企画「地域発！現場検証シリーズ」～

当研究所では、機関誌「福島の進路」の新企画として、(公財)日本生産性本部の広報紙「生産性新聞」との共同取材を実施しています。「地域発！現場検証シリーズ」と称し、①SDGs・サーキュラーエコノミー、②レジリエンス、③100年企業をテーマに、県内の企業・団体を訪問取材し、老舗研究・リスクマネジメントの第一人者である神田良氏によるインタビューを実施しました。取材記事は、上記の2媒体に掲載し、福島の魅力や取組を全国に発信しました。

株式会社 ナプロアース



～サーキュラーエコノミーの実現と世界標準化、リサイクル活動の認知活動～

当社では使用済み自動車を買取り「部品のリユース」や「素材のリサイクル」として有効活用しています。また、車のフロンを回収し、温暖化抑制と地球環境保全に尽力しています。リサイクルされた自動車は重量ベースで99%が再資源化されています。

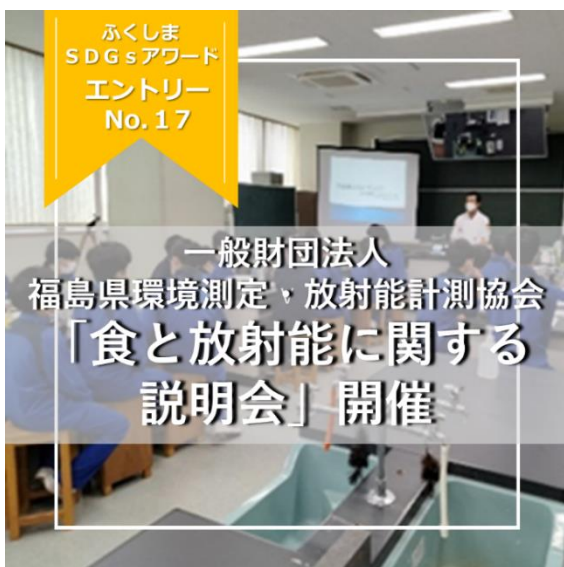
これらの活動をSNS等で発信したり、地域の学生や住民の工場見学受け入れにより、リサイクルの普及と啓蒙を続けています。



～TOHOキッズc a f eキャラバン～

「地域社会の輝く未来を担うこどもたち」への支援事業として、県内各地の「こども食堂」へキッチンカーに乗ったキャラバン隊が訪問しています。訪問先では、お弁当を配布を通じて食育活動を応援するとともに、金融・SDGs教室を開催し、こどもたちに社会に必要な金融の基礎的知識の普及に努める他、SDGsの啓蒙活動を実施しております。

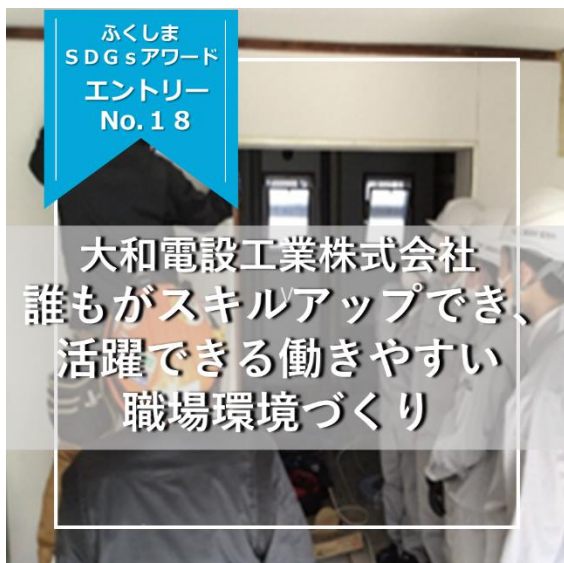
一般社団法人福島県環境測定・放射能計測協会



～「食と放射能に関する説明会」開催～

大学教授や専門家を講師に、要望のあった企業、学校・幼稚園・保育園の保護者、町内会、サークルなどに対して、食と放射能に関する説明会を開催しています。福島県産の米や野菜、水産物の放射能濃度の現状や健康への影響、ALPS処理水放出に係る疑問などの説明も行い、県民の不安に寄り添った活動を実施しています。（今年度の申込：65件）

大和電設工業株式会社



就業時間内での学習の様子



新入社員実技研修 実体配線



無料貸出用テキストとDVD



高校生インターンシップでの現場見学

～誰もがスキルアップでき、活躍できる働きやすい職場環境づくり～

弊社では社員教育と地域貢献に力を入れ、新入社員教育を約3週間かけて実施するほか、電気工事関係の資格取得を推奨し、テキストの無料貸出や資格・技術取得に係る費用の会社負担、報奨金制度を設けています。就業時間内の学習制度もあり、誰でもスキルアップできる職場環境づくりを行っています。

地域貢献では、高校生を対象としたインターンシップに協力し、今年度は8名の生徒を受け入れました。

只見町立只見中学校



～海洋の視点を付加した只見中のESD～

只見町は四方を山に囲まれた地域ですが、潤沢な降水量に恵まれ農作物の生産地として県内でも屈指です。水力発電のメッカとしても知られています。これらが海の恩恵であることは地域の3つの小学校で学んできました。

しかし、地域住民は事実は知っていても、海の環境を守ろうとして活動をしている人は一握りです。中学生が先導して海を守る活動をすることにより、地域の絆をより深くすることにもつながります。地域を大切にすることを他の市町村にも広めていきたいと考えています。プラスチックの利用抑制により地域、そして地球を守る活動を行ってまいります。

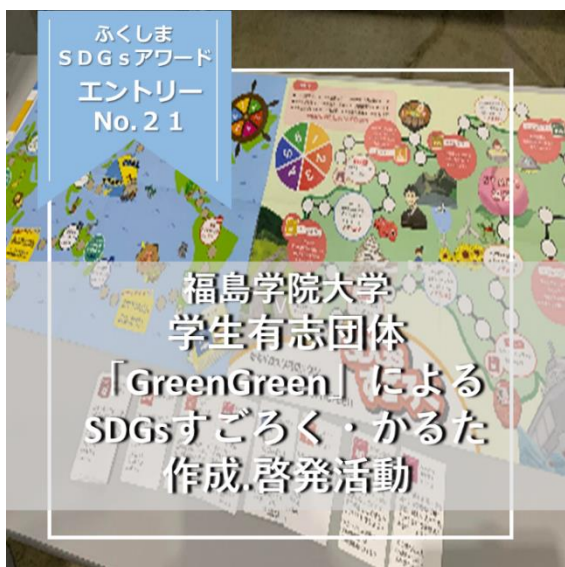
白河市



～女性に寄り添うライフ・ワークサポート事業～

子育てによるブランク等により就職に不安がある女性を対象に、「はたらく」に関連するテーマについて参加者同士で話し合う『ママのしゃべり場』や、就労相談・求人のあっせん等を無料託児サービス付きで行う『個別相談会』、短時間勤務・ワークシェアリングを取り入れた就労支援モデルづくりのための『実証実験』、女性の雇用促進や多様な働き方を推進するための『事業者向けセミナー』などを実施しています。

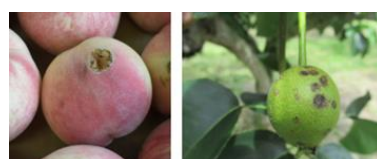
福島学院大学



～学生有志団体「GreenGreen」によるSDGsすごろく・かるた作成、啓発活動～

多くの人に関心を持ち、楽しみながら行動に移せるよう、かるたやすごろくを作成しました。すごろくのマスには、クイズや行動につながるミッションがあり、ゲームを進めることで、知識が身に付くだけでなく、自分事として捉え、話し合ったり行動を起こしたりできるような工夫をしました。

福島市



～ひょう害に負けるな！～くだもの生産者支援と食品ロス削減に向けて～

令和4年6月のひょう害により、福島市内の一部地域においても、モモやナシなどのくだものが被害を受け、通常の出荷ができない状態となりました。福島市では、生産者を応援するポータルサイトを開設し、被害状況やひょう害果の直売情報などを発信することで、全国に応援を呼びかけ、支援の輪を広げました。

生産者の配送・集荷・出店手数料などへの支援も行い、持続可能な農業を目指すとともに、食品ロス削減にも貢献しています。

おおたま村づくり株式会社



～「エシカル消費」で持続可能な社会をつくろう～

あたらの里直売所では、地元野菜や障がい者施設の商品を販売し、地産地消とエシカル消費に貢献しています。地産地消の推進は運送にかかる燃料削減につながり、環境への負荷を軽減することができます。また、規格外の野菜も販売することで、無駄を省くことができます。

エシカル消費を県内に広めるため、毎月12日を「エシカルの日」とし、啓発イベントの開催やグッズの設置を通して情報発信に取り組んでいます。

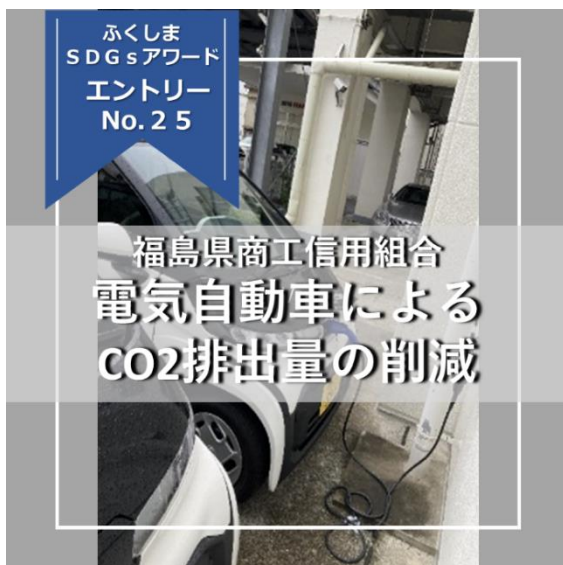
只見町教育委員会



～ ESDパートナー締結～

ESDの推進やSDGsの達成に向けて、町の教育機関の代表で構成したESD推進委員会と、町内企業や団体（9団体）とでパートナー締結をしました。企業・団体には、SDGsの視点を取り入れた農業体験や職場体験を実施していただくとともに、中学校で作製した新聞レジ袋や米袋を再利用した焼酎袋、ブナの木SDGsバッジなどを活用していただいています。また、教育委員会でSDGs講座を実施し、企業の皆さんに参加していただいています。

福島県商工信用組合



～電気自動車によるCO2排出量の削減～

令和4年7月にトヨタ自動車(株)の小型電気自動車「C+Pod」20台を郡山市内店舗に導入しました。導入する支店の駐車場内には電気自動車の充電設備を整備し、来店するお客様の電気自動車の充電にご利用いただくことが可能です。メディアにも多数掲載いただきました。

組木屋えんどう



コロナ感染非常事態宣言の中
リモートで箸づくりをレクチャー
生徒の皆さんからの質問に
答えながら授業をする様子

～産学官連携による伝統芸能継承への貢献～

伝統技術や伝統芸能で培われたノウハウを活かし、環境にも配慮した商品の開発を進めています。文化財保護に資する技術の伝承と更新への寄与として、学校等で伝統技能を体感する授業を実施しています。

また、特別支援学校の生徒さんに「自分で作った箸で給食を食べる」をテーマに自立支援体験型学習（マイ箸づくり）を実施しています。

株式会社Kokage



～アップサイクル商品の開発を通じた若者による持続的な地域づくりプロジェクト～

「お茶を通じて地域を知り、地域と関わる」をコンセプトに、規格外フルーツ、耕作放棄地で自ら栽培したハーブをブレンドしたフルーツハーブティーを製造販売することで、フードロス、耕作放棄地の問題の解決に貢献しています。製造過程には県内学生が関わることで、継続的に若者が地域に関わる仕組みを創出しています。

猪苗代町立猪苗代中学校



統合前に3校合同で水草とり



湖畔清掃ボランティア



水草肥料でコキアを栽培



コキアで作った
クリスマスツリー

～よみがえれ！猪苗代湖！！～猪中型資源循環サイクル～

地域団体と連携・協働し、猪苗代湖の水草の除去作業をしています。また、「湖の水質汚濁の状況」の説明を受けるなど、体験と学びを両立させています。さらに、湖畔清掃ボランティアの参加者を募り、地域の方々と一緒に活動もしています。回収した水草で紙づくりをしたり、水草を肥料にしてコキアを栽培したりして、環境保全活動の意義を発信し、活動する仲間を増やす努力をしています。資源循環のシンボルとして、栽培したコキアをほうきやクリスマスツリーに加工しています。「資源をムダにしない」見方や考え方を学ぶ取組です。

県立あさか開成高等学校



みんなで創る「山の学校」



「山の学校」で森林管理を
学んでいます



裏磐梯ウォーターエディケーション
モニターツアー



「百貫清水」にて名水の魅力を発信!!

～WITH（一緒に）♥あさか開成高校 社会と協働するローカルSDGs実践～

「学校教育を通じてよりよい社会を創る」人材育成のための実践です。「山の学校」プロジェクトでは、NPOと国立環境研究所、さらに企業・地域の方々と一緒に、高校生がよりよい社会について学び考える場を作っています。「裏磐梯SDGs学習旅行を考える」プロジェクトでは、裏磐梯観光活性化協議会と協働で、裏磐梯をフィールドにした環境学習旅行について考える活動を行っています。

プラットフォーム専用HP・SNS

▶ プラットフォーム専用ホームページ

ふくしまSDGs推進プラットフォーム

検索

<http://www.pref.fukushima.lg.jp/site/sdgs-pf/>



▶ 公式SNS

<Facebook>



※アカウント名「ふくしまSDGs推進プラットフォーム」で検索ください。

<Instagram>



※アカウントID「@fukushima_sdgs_pf」で検索ください。

<LINE>



※公式アカウント検索欄にて、アカウント名「ふくしまSDGs推進プラットフォーム」で検索ください。

皆様からのフォロー・お友達登録
お待ちしております！



ふくしま応援！『ペコ太郎』

その他

▶ 新しい福島県総合計画

<https://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/11015b/comprehensiveplan2022-2030.html>



▶ ふくしま復興情報ポータルサイト

<http://www.pref.fukushima.lg.jp/site/portal>



▶ 東日本大震災・原子力災害 10年の記録

<https://fukushima-10years-archives.jp/>



▶ 復興・再生のあゆみ（復興関連冊子）

<http://www.pref.fukushima.lg.jp/site/portal/ps-fukkoukeikaku1151.html>



▶ 「ひとつ、ひとつ、実現する ふくしま」

<https://jitsugensuru-fukushima.jp/>



ふくしまSDGs推進プラットフォーム事務局：
福島県 企画調整部 復興・総合計画課

〒960-8670 福島県福島市杉妻町2番16号
Tel : 024-521-7109 Mail : sougoukeikaku@pref.fukushima.lg.jp